

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第160集

にし まつ やまとうげ かま あと
西松山峠 窯跡

2009

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県瀬戸市は現在日本を代表する窯業生産地ですが、その歴史は古く古代の灰軸陶器生産に端を発します。そして中世には国内唯一の施釉陶器である古瀬戸を生産し、鎌倉を中心として全国に販路を広げる一方、流通がほぼ東海地方に限られる無釉陶器である山茶碗も生産していました。古瀬戸と山茶碗は釉薬の有無の他にも、粘土の質、成形方法、焼成方法、流通範囲など相違点が多く、生産者集団は別と考えられています。しかし1つの窯跡から古瀬戸と山茶碗の両方が出土することがあり、両者は密接な関係を保ちながら生産をしていたと考えられます。

当財団は国道155号改良工事に伴う事前調査として、愛知県より委託を受けて西松山峠窯跡の発掘調査を実施しました。窯跡の所在する水野地区は早くから開発が進んだため、残存する窯跡が少ない地域です。調査の結果、山茶碗のみを焼成した窯と考えられていたものが、古瀬戸も焼成していた窯であったことがわかり、この地区の窯業生産の実態を解明する上で大きな成果を上げることができました。

今回これらの成果をまとめた報告書を刊行することになりました。本書が歴史資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に関するご理解を深める一助となれば幸いに存じます。

なお文末で恐縮ではありますが、発掘調査の実施に当たりまして、地元の方々を初め関係者及び関係機関のご協力とご指導をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 林 良 三

例言

1. 本書は愛知県瀬戸市北松山町に所在する西松山峠窯跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国道155号改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は平成18年6月から8月まで、調査面積は750㎡である。
4. 発掘調査の担当者は、小澤一弘（主査、現調査研究専門員）、永井邦仁（調査研究員、現調査研究主任）、宇佐見守（調査研究員、現調査研究主事）である。
5. 発掘調査において、株式会社二友組より調査業務全般の支援を受けた。
6. 遺物整理および本書作成に関わる整理事業は平成19年4月から7月まで実施し、永井智子・山田有美子（整理補助員）の協力を得た。（五十音順・敬称略）
なお、整理事業の効率化をはかるため、次の作業を外部委託した。
出土遺物の実測・デジタルトレース（国際航業株式会社）
出土遺物の写真撮影（有限会社写真工房・遊）
炭化材の樹種同定・放射性炭素年代測定（株式会社パレオ・ラボ）
7. 本書の執筆と編集は宇佐見が担当したが、第4章のみ野村敏江（株式会社パレオ・ラボ）、パレオ・ラボAMS年代測定グループが分担執筆した。
8. 調査および本書作成にあたっては、埋蔵文化財運営協議会委員、埋蔵文化財専門委員ならびに次の方々、関係機関のご協力、ご指導を得た。
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、
愛知県建設部道路建設課、瀬戸市教育委員会、財団法人瀬戸市文化振興財団
（順不同・敬称略）
9. 調査および本書で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第Ⅶ系に基づくものであり、海拔標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。
10. 本書で使用した土壌色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
11. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いた番号を用いた。したがって、土坑（SK）・溝（SD）などの記号にも厳密な統一性はない。
12. 発掘調査時の記録（実測図・写真など）は愛知県埋蔵文化財センターで保管し、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

第1章 経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	6
(1) 縄文時代	(2) 古墳時代
(3) 古代	(4) 中世
(5) 近世	(6) 近現代
第3章 調査の成果	
第1節 層序	10
(1) 東西方向	(2) 南北方向
第2節 遺構	21
(1) SX001	(2) SX002
(3) SX018	(4) SX019
第3節 遺物	29
(1) 無釉陶器	(2) 施釉陶器
(3) 窯道具	(4) 窯壁
第4章 理化学的分析	
第1節 西松山峠窯跡出土炭化材の樹種同定 (パレオ・ラボ)	55
第2節 放射性炭素年代測定 (パレオ・ラボ)	57
第5章 総括	
第1節 調査成果のまとめ	60
(1) 旧地形の復元	(2) 窯体の位置
(3) 生産規模	(4) 編年的位置
第2節 中世瀬戸窯における西松山峠窯跡の位置付け	61
参考文献	64
写真図版	1～14

挿図目次

図1	瀬戸市の位置	3
図2	瀬戸市の地形・地質	3
図3	遺跡周辺地形図	4
図4	遺跡周辺地形図(明治24年)	5
図5	周辺遺跡分布図	6
図6	グリッド位置図	7
図7	調査前平面図	9
図8	土層断面位置図	10
図9	トレンチ01南壁断面図	11
図10	トレンチ02南壁断面図	12
図11	ベルト01東西土層断面図	14
図12	ベルト04南北土層断面図	15
図13	ベルト03南北土層断面図	17
図14	ベルト02南北土層断面図	19
図15	遺構平面図	22
図16	SX001・SX019東西土層断面図	23
図17	西壁南北土層(1)断面図	24
図18	西壁南北土層(2)断面図	24
図19	出土遺物実測図(山茶碗)	37
図20	出土遺物実測図(山茶碗)	38
図21	出土遺物実測図(山茶碗)	39
図22	出土遺物実測図(山茶碗)	40
図23	出土遺物実測図(山茶碗)	41
図24	出土遺物実測図(山茶碗)	42
図25	出土遺物実測図(山茶碗・小碗・小皿・陶丸)	43
図26	出土遺物実測図(四耳壺・瓶子)	44
図27	出土遺物実測図(瓶子)	45
図28	出土遺物実測図(瓶子・銅皿・水注)	46
図29	出土遺物実測図(団子トチ・焼台)	47
図30	出土遺物実測図(焼台・浴着)	48
図31	西松山峠窯跡出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真	56
図32	暦年校正結果	59

表目次

表1	周辺遺跡一覧表	7
表2	トレンチ01南壁土層観察表	13
表3	トレンチ02南壁土層観察表	13
表4	ベルト01東西土層断面土層観察表	16
表5	ベルト04南北土層断面土層観察表	16
表6	ベルト03南北土層断面土層観察表	18
表7	ベルト02南北土層断面土層観察表	20
表8	SX001・SX019東西土層断面土層観察表	23
表9	西壁南北土層(1)断面土層観察表	24
表10	西壁南北土層(2)断面土層観察表	24
表11	遺構一覧表	25
表12	出土遺物個体数表	29
表13	山茶碗個体数表	30
表14	山茶碗高台残存別個体数表	30
表15	小皿個体数表(1)	31
表16	小皿個体数表(2)	31
表17	陶丸個体数表	31
表18	陶丸長径別個体数表	31
表19	青灰色焼台個体数表	34
表20	主要遺構出土青灰色焼台個体数表	34
表21	赤褐色焼台個体数表	34
表22	主要遺構出土窯壁個体数表	36
表23	遺物観察表	49
表24	西松山峠窯跡の樹種同定結果	56
表25	測定試料及び処理	57
表26	放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果	58
表27	山茶碗・小皿グリッド別出土個体数表	62
表28	古瀬戸グリッド別出土個体数表	63
表29	陶丸グリッド別出土個体数表	63
表30	焼台グリッド別出土個体数表	63

写真図版目次

写真図版 1	調査区遠景（北東より） 調査区遠景（南より） 調査区遠景（東より）
写真図版 2	調査区近景（東より） 調査区北部（南東より）
写真図版 3	平場 03 南部（東より） 平場 03 北部（南より） 平場 04（南西より） 平場 05（南より） 平場 03・05（西より） 平場 06（北より） 平場 09（南より） 平場 07・10（西より）
写真図版 4	トレンチ 01 断面（西より） トレンチ 01 深掘断面（北より） トレンチ 02 断面（北西より） ベルト 01 断面（北西より） 調査区西壁（東より） ベルト 02 断面（南東より） ベルト 03 断面（南東より） ベルト 04 断面（南東より）
写真図版 5	SX001 遺物出土状態（南西より） SX001 南北断面（北東より） SX001 東西断面（北東より） SX001 完掘状況（北東より）
写真図版 6	SX002 遺物出土状態（北西より） SX019 遺物出土状態（北西より） SX019 遺物出土状態（北より） SX019 断面（北東より） SX019 完掘状況（北西より）
写真図版 7	遺物写真（1）
写真図版 8	遺物写真（2）
写真図版 9	遺物写真（3）
写真図版 10	遺物写真（4）
写真図版 11	遺物写真（5）
写真図版 12	遺物写真（6）
写真図版 13	遺物写真（7）
写真図版 14	遺物写真（8）

第1章 経過

第1節 調査の経緯

国道155号は、常滑市を起点として名古屋市郊外を環状に巡り弥富市に至る一般国道である。瀬戸市では上之山町から北上し、市街地に入ると向きを西に変え、公立陶生病院付近で再び北上し、名古屋市守山区上志段味に至るルートを通る。特に遺跡のある北松山町周辺では、瀬戸市街地と水野地区を結ぶ主要道路として古くから利用され、明治18年の地籍図にも描かれている。

この道路の拡幅工事が計画され、当遺跡のある丘陵が削平されることになり、記録保存を目的とした発掘調査をおこなうことになった。そこで、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた㈱愛知教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが調査を実施した。調査期間は平成18年6月から8月にかけて、調査面積は750㎡である。

また、本書作成にかかる整理作業は、平成18・19年度に実施した。1次整理はコンテナ50箱分の出土遺物の洗浄を発掘調査と併行して実施した。2次整理は出土遺物の分類・接合・復元・実測、遺構図面の整理、各種調査データのパソコン入力を平成19年4月から7月にかけて実施した。

第2節 調査の方法と経過

調査区のある丘陵斜面には多数の平場が確認でき、中に埋蔵のある平場が存在することから、かつては畑として利用されていたと思われる。しかし、調査前は竹混じりの雑木林となっており、平場の段面に山茶碗や焼台などが観察できる状態であった。

樹木を伐採すると、山茶碗以外に古瀬戸の散布が確認され、従来鎌倉時代の山茶碗専焼窯と考えられていたこの窯が、古瀬戸も焼成していた可能性が出てきた。さらに山茶碗も設定していた調査範囲を超えて散布しているのが確認されたため、調査区の表土剥ぎを行う前に、調査区外北側に重機でトレンチを掘削し、遺構の有無を確認した。結果、調査区外に遺構が展開しないことを確認し、調査区の表土剥ぎに着手した。

調査は調査区内に国土座標第Ⅷ系による5mグリッドを設定し実施した。出土遺物は出土地点の平場とグリッドがわかるように取り上げた。



左 調査前風景 (伐採前、南より)



右 調査前風景 (伐採後、南東より)

調査日誌 (抄)

6月 7日 (水)	晴	調査区地形測量
6月 16日 (金)	晴	事務所設置
6月 19日 (月)	晴	調査区フェンス設置
6月 20日 (火)	晴	午前 調査区外北側に重機によりトレンチ掘削 午後 調査区表土剥ぎ開始
6月 21日 (水)	晴	表土剥ぎ平場 12 を除き終了
6月 22日 (木)	曇のち雨	午前 トレンチ 01 掘削 午後 雨のため作業中止
6月 27日 (火)	曇	本日から作業員開始 トレンチ 01・02 掘削、平場 04・06・07 表土層掘削
6月 28日 (水)	晴のち曇	ベルトコンベアー設置
6月 29日 (木)	晴	平場 03・04 遺構検出、平場 05～07 表土層掘削
7月 3日 (月)	曇	ベルト 02 土層断面記録
7月 4日 (火)	晴	平場 03・04 遺構掘削、平場 06・07 平場造成層 (SX018) 掘削
7月 12日 (水)	曇	ベルト 03 土層断面記録、平場 09・10 平場造成層掘削
7月 13日 (木)	曇	平場造成層から磁器製の洋食皿が出土
7月 14日 (金)	晴	平場 11・12 表土層掘削 (平場 12 北端は重機を併用) 平場 08 でベルト 03 に沿ってトレンチ掘削
7月 18日 (火)	雨	雨のため作業中止、ベルト 03 一部崩壊
7月 20日 (木)	雨時々曇	午前 ベルト断面写真撮影準備 午後 雨のため作業中止
7月 25日 (火)	曇のち晴	ベルト断面写真撮影、撮影後トレンチ 01 再掘削
7月 26日 (水)	晴	遺構・ベルト 02・03 掘削、トレンチ 01 再掘削
7月 27日 (木)	晴	ベルト 03・灰原 (SX001・002) 掘削
7月 28日 (金)	晴	ベルト 02・03・SX001 掘削 グリッド 1D16q 重機により表土層掘削
7月 29日 (土)	晴	ベルト 04 掘削、トレンチ 01・ベルト 01 土層断面記録 SX001・019 の遺物出土状況写真撮影
7月 31日 (月)	曇	遺構・ベルト 04 掘削、空撮に向けて清掃
8月 1日 (火)	曇	午前 ラジコンヘリによる空撮 午後 ベルト 01・トレンチ 02 ベルト掘削、SX001 断ち割り
8月 2日 (水)	曇	SX001・019 掘削、調査区西壁土層断面記録
8月 3日 (木)	晴	午前で作業員終了、トレンチ 01 の一部を重機で断ち割り
8月 7日 (月)	晴	調査区フェンス撤去

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

西松山峠窯跡の所在する瀬戸市北松山町は、瀬戸市の中央やや西よりに位置する。遺跡の北西方向には水野田地が、また北東方向には瀬戸市民公園が存在し、瀬戸市内では比較的早くから開発が進んだ地域である。そのようななか、遺跡はかろうじて開発を免れ雑木林となっている標高約125mの丘陵東向き斜面に立地する。遺跡の東側を国道155号が南北に通るが、この丘陵地を抜ける最高地点は切り通しの峠となっており、遺跡と道路との高低差は約3mを測る。



図1 瀬戸市の位置

瀬戸市域の丘陵は、矢田川・瀬戸川・水野川により開析されたもので、南から幡山丘陵・菱野丘陵・水野丘陵・穴田丘陵と呼ばれる。遺跡の立地する丘陵は水野川と瀬戸川にはさまれた水野丘陵である。水野丘陵は、東部に瀬戸陶土層が、西部に水野砂礫層が広く分布し、現在でも陶土や珪砂の採掘がさかんである。また、遺跡の周辺には北松山町の他にも西松山町・東松山町など「松」の字がつく地名があり、付近に松林が広がっていたことが想像される。このようなことから、窯業生産に必要な原料や燃料などは比較的手に入れやすかったと考えられる。

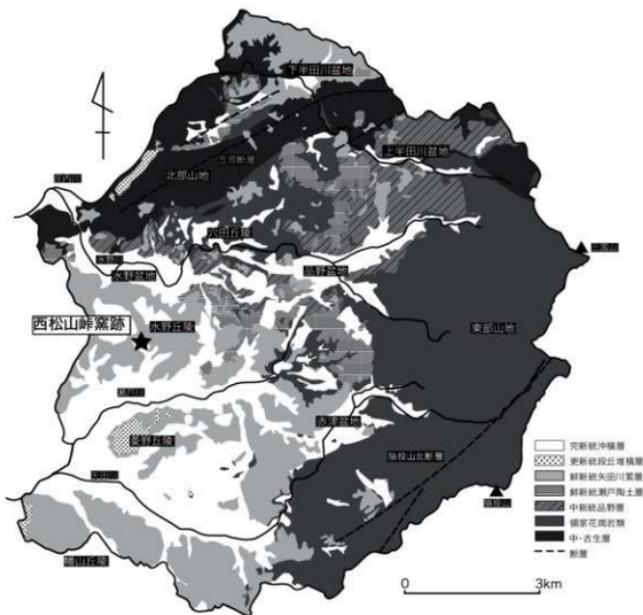


図2 瀬戸市の地形・地質

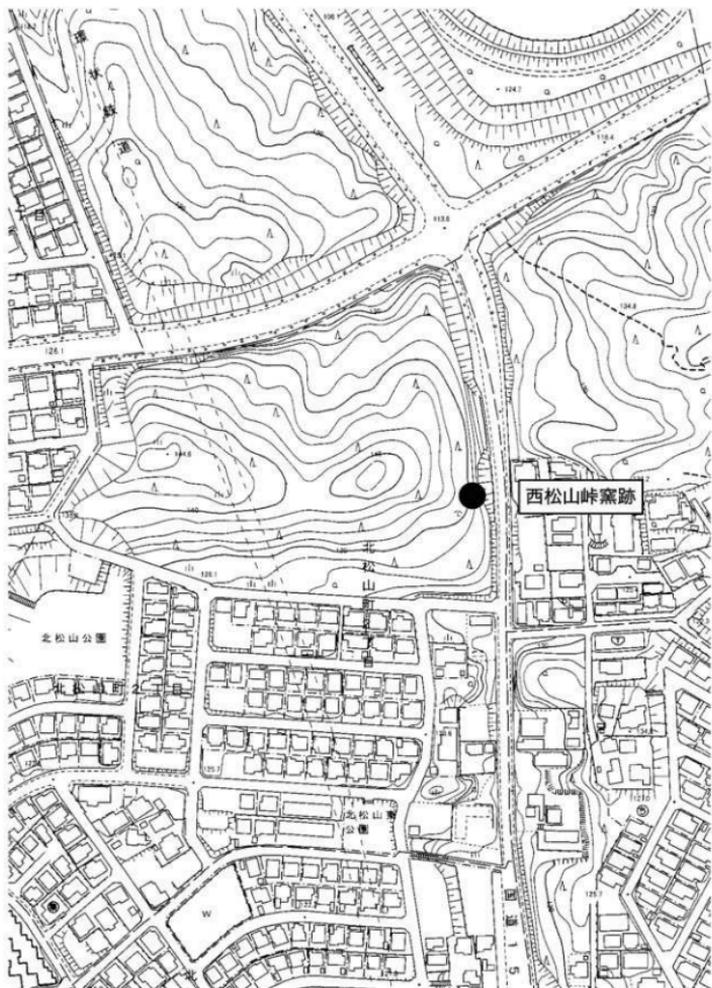


図3 遺跡周辺地形図 (S=1/2,500)



図4 遺跡周辺地形図 (明治24年) (S=1/20,000)

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

遺跡の所在する水野丘陵は、比較的早くから開発が進んだ地域であり、周辺の遺跡としては、わずかな窯跡が知られるのみである。そこで、ここでは、水野丘陵とその周辺を含めた歴史的環境を時代ごとにみていく。

(1) 縄文時代

現在判明している水野地区最古の遺跡として内田町遺跡がある。中期後葉から後期中葉にかけての土器とともに、後期前葉から中葉にかけての落とし穴状遺構や土壌腐の可能性がある遺構が検出されている。



●古墳 ○古墳(滅失) ▲窯跡 △窯跡(滅失) ■城館 ×遺跡 番号は『瀬戸市詳細遺跡地図』と同一

図5 周辺遺跡分布図(S=1/25,000)

表1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
37	石坪古墳	古墳	149	喚3号家跡	14世紀	190	神中A家跡	19世紀
40	四ツ谷2号墳	古墳	150	喚4号家跡	14世紀	191	定刺家跡	17～19世紀
41	四ツ谷3号墳	古墳	151	喚5号家跡	14世紀	192	家神A家跡	19世紀
42	四ツ谷4号墳	古墳	152	喚1号墳	古墳	193	家神B家跡	17～19世紀
44	四ツ谷6号墳	古墳	153	喚2号墳	古墳	194	辰吉家跡	19世紀
45	四ツ谷7号墳	古墳	154	喚3号墳	古墳	195	クニヤ家跡	19世紀
46	七郎左1号墳	古墳	155	穴田1号家跡	17世紀	196	吉右衛門家跡	18～19世紀
47	七郎左2号墳	古墳	156	穴田2号家跡	17世紀	197	川本家跡	19世紀
48	七郎左3号墳	古墳	157	穴田3号家跡	17世紀	198	幸兵衛南家跡	18世紀
49	山鹿1号墳	古墳	158	穴田4号家跡	17世紀	199	幸兵衛家跡	17～19世紀
50	山鹿2号墳	古墳	159	穴田南1号家跡	12世紀	200	深川神社古墳	古墳
54	稲府南1号墳	古墳	160	穴田南2号家跡	12世紀	617	大平山崎跡	中世
55	稲府南2号墳	古墳	161	穴田南3号家跡	12世紀	619	一色城跡	中世
97	七郎左家跡	19世紀	162	穴田南4号家跡	12～13世紀	620	曾野遺跡	中世～近世
98	山の神1号墳	古墳	163	穴田南5号家跡	12～13世紀	626	穴田遺跡	13世紀
99	山の神2号墳	古墳	164	上本町A家跡	12世紀	627	種成4号家跡	13世紀
100	小金山家跡	15～16世紀	165	上本町B家跡	近代	630	松澤遺跡	古代
101	北脇古墳	古墳	166	準工団地1号家跡	13世紀	631	穴田南7号家跡	12～13世紀
102	水北A家跡	15世紀	167	準工団地2号家跡	13世紀	632	穴田南6号家跡	13世紀
103	水北B家跡	15世紀	168	総合グラウンド	13世紀	701	小田妻7号家跡	13世紀
104	普田1号家跡	15～16世紀	169	総合グラウンド	13世紀	702	小田妻8号家跡	13世紀
105	普田2号家跡	15～16世紀	170	総合グラウンド	13世紀	703	小田妻9号家跡	13世紀
106	普田3号家跡	15世紀		2号家跡		837	穴田A家跡	13世紀
107	普田1号墳	古墳		総合グラウンド		838	種成5号家跡	14世紀
108	普田2号墳	古墳		3号家跡		844	幸右衛門家跡	18～19世紀
109	普田3号墳	古墳	171	小田妻1号家跡	13世紀	845	藤原右井遺跡	19世紀
110	穴田1号墳	古墳	172	小田妻2号家跡	13世紀	893	穴田B家跡	13世紀
111	穴田2号墳	古墳	173	小田妻3号家跡	13世紀	894	穴田C家跡	13世紀
112	穴田3号墳	古墳	174	小田妻4号家跡	13世紀	895	上本町C家跡	中世～近世
113	穴田4号墳	古墳	175	小田妻5号家跡	12世紀	896	上本町D家跡	13世紀
114	穴田5号墳	古墳	176	小田妻6号家跡	12世紀	897	上本町E家跡	19世紀
115	穴田6号墳	古墳	177	水野沼地原紀遺跡	中世	904	三沢5号墳	古墳
116	穴田7号墳	古墳	178	少年館家跡	12世紀	905	三沢6号墳	古墳
117	穴田8号墳	古墳	179	鴨ヶ沢家跡	14世紀	906	三沢7号墳	不明
118	穴田9号墳	古墳	180	苗場家跡	13世紀	910	三沢8号墳	古墳
119	穴田10号墳	古墳	181	西松山1号家跡	13世紀	911	三沢4号墳	古墳
120	穴田11号墳	古墳	182	西松山2号家跡	13世紀	925	普田4号墳	古墳
121	種成1号家跡	13～15世紀	183	栗山神社家跡	13世紀	931	水野遺跡	古代～近世
122	種成2号家跡	13～15世紀	184	南地蔵家跡	13世紀	932	水北遺跡	古代～近世
123	種成3号家跡	13世紀	185	水南中家跡	13世紀	933	中水野遺跡	古代～近世
125	数成口1号家跡	13世紀	186	水南小前家跡	13世紀	934	上本町遺跡	古代～近世
126	数成口2号家跡	13世紀	187	新七家跡	18～19世紀	940	上松山A家跡	13世紀
147	喚1号家跡	13～14世紀	188	市北後門家跡	18～19世紀	941	一軒町遺跡	古代～近世
148	喚2号家跡	13～14世紀	189	山広家跡	19世紀	942	内田町遺跡	古代～近世
						948	深川神社北家跡	19世紀

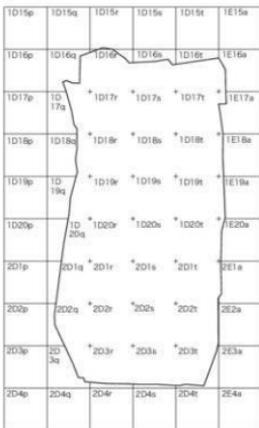


図6 グリッド位置図



工事終了後風景

(2) 古墳時代

内田町遺跡で、初頭の方形周溝墓と考えられる溝の一部が検出されている。

現在水野盆地には総数 51 基の古墳が確認されている。分布は水野盆地の北から東にかけての丘陵に集中している。多くは後期の円墳で、横穴式石室をともなうものが多い。

(3) 古代

古代には尾張国山田郡に属していたと考えられるが、明確な遺跡は確認されていない。しかし、かつて水野盆地には条里地割と思われる区画がみられ、平安時代の遅い時期ないし中世初期に条里地割が形成されたと考えられている。また、式内社として尾張戸神社と金神社がある。

(4) 中世

12 世紀末に志談郷の荘官に任じられた水野氏は、遅くとも 13 世紀ごろには水野盆地へ勢力を拡大したとみられている。水野氏の居館といわれているのが大平山城で、寛政 4 (1792) 年の「中水野村絵図」に「水野佐右衛門尉城跡」と記されている。また、14 世紀初頭以前には熱田社領の水野上御厨が成立していたことが確認されている。水野上御厨の正確な位置は不明だが、田畑以外に非常に広大な山野を囲い込んでいたことが知られている。

発掘調査された集落遺跡として内田町遺跡がある。12 世紀中葉から 15 世紀後葉にかけての 6 棟の掘立柱建物と 10 列の柵列が検出されており、3 期にわたる建物と耕作地の変遷が指摘されている。

水野地区では、12 世紀半ばに山茶碗の生産が開始される。その後、瀬戸窯で古瀬戸の生産が開始されると水野地区でも山茶碗と併焼する形で古瀬戸の生産が開始されるようになる。しかし、他地区と比べると窯跡数は多くなく、山茶碗のみを焼成した窯跡の割合が高い。15 世紀後半に大窯による生産が開始されると、水野地区でも昔田窯跡や小金山窯跡などで大窯による生産がおこなわれた。

(5) 近世

16 世紀半ばごろ山田郡は愛知郡と春日井郡に分割され、水野地区は春日井郡に属した。水野上郷・水野中郷・水野下郷に大きく区分されていた水野地区は、天正年間 (16 世紀後半) 以降、上水野郷・中水野郷・下水野郷とよばれ、さらに江戸時代には、上水野村・中水野村・下水野村となる。当遺跡の地は中水野村に該当する。中水野村は、「寛文覚書」に概高 398 石余、反別は田 25 町余・畑 4 町余、松山 113 町余 (下菊年貢納)、松山 44 町 (鹿山御留林)、山方 19 町余、雨池 3 か所、井瀬木 2 か所、鹿垣土居 1100 間、家数 31・人数 227、馬 17 とある。

中・上水野村の北一帯の山は水野山と総称され、中世以来の狩場であった。尾張徳川家初代藩主義直はたびたび鹿狩りを行い、2 代藩主光友は宿泊・休憩のために、上水野村に水野御殿を建てた。御殿は、寛文 7 (1667) 年に愛知郡・春日井郡の山林を取り締まる林方役所の官舎となった。また、天明元 (1781) 年には、中水野村に愛知郡・春日井郡・美濃国可兒郡の各一部を支配する水野代官所が置かれた。

近世の窯業生産遺跡としては、定光寺源敬廟焼香殿の敷瓦を焼成した穴田 1・2 号窯跡がある。窯跡は、林方役所創設の時に役人衆の屋敷地となり、立ち退きを命ぜられたため、水野地区の窯業生産は途絶えてしまう。

(6) 近現代

明治 13 (1880) 年に上水野村・中水野村・下水野村は東春日井郡に所属し、同 22 (1889) 年に合併して水野村となる。水野村は昭和 26 (1951) 年に瀬戸市に吸収され現在に至っている。

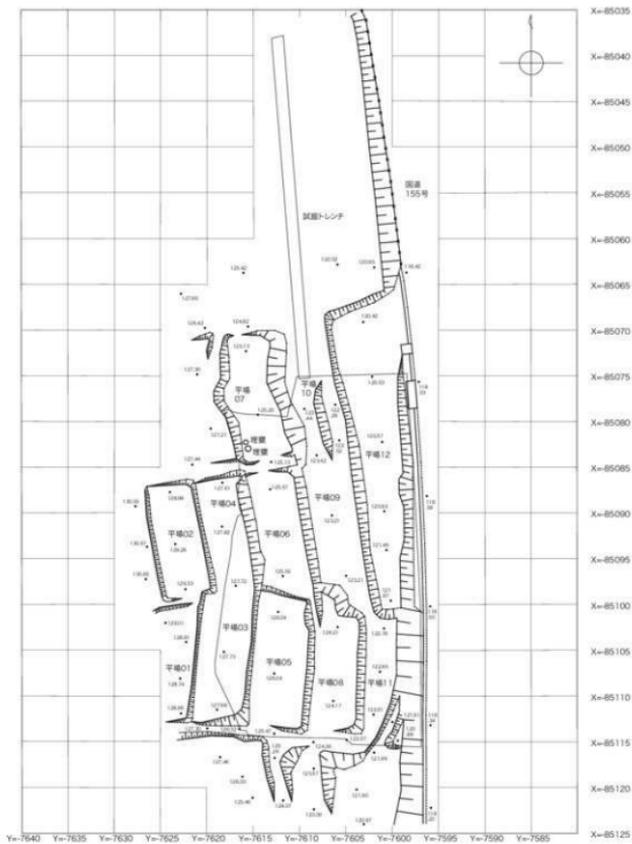
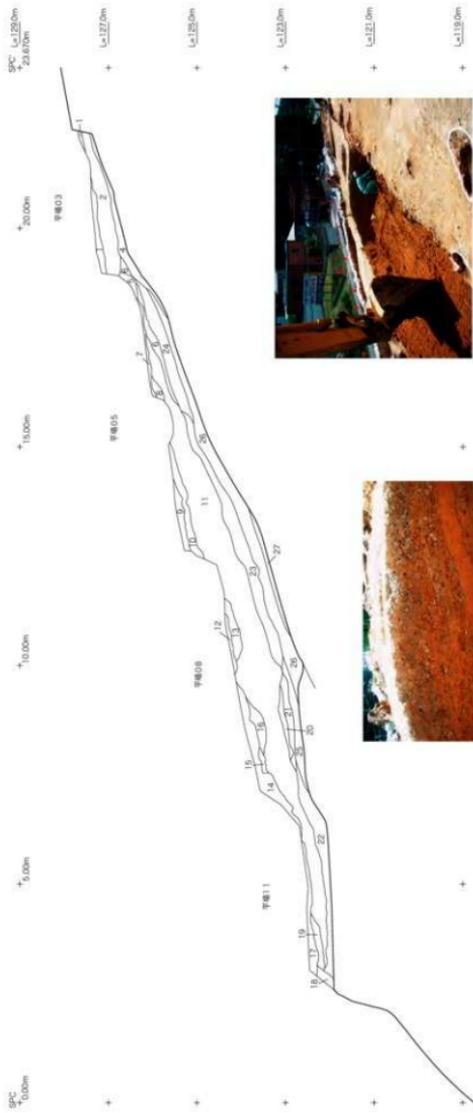


図7 調査前平面図 (S=1/500)



断面
築造作業状況



平場 08 断面

図9 トレンチ01 断面断面 (S=1/100)

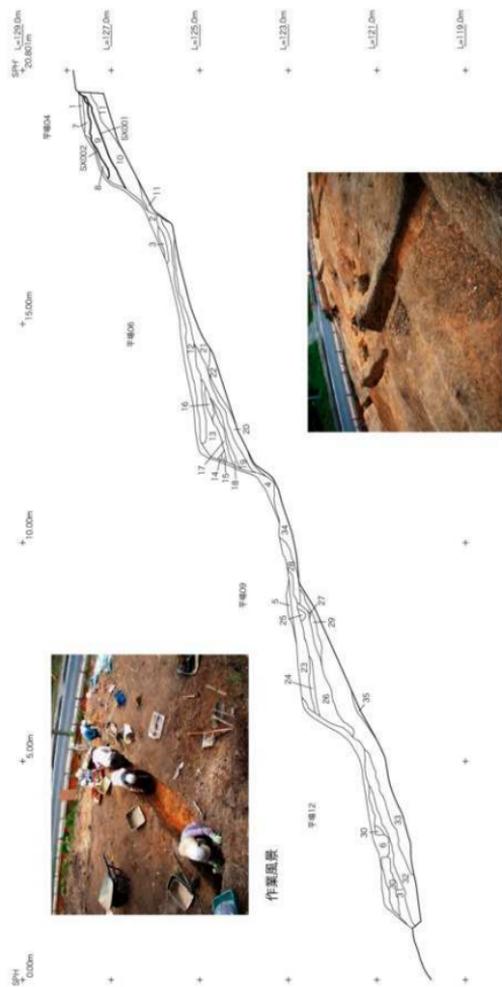


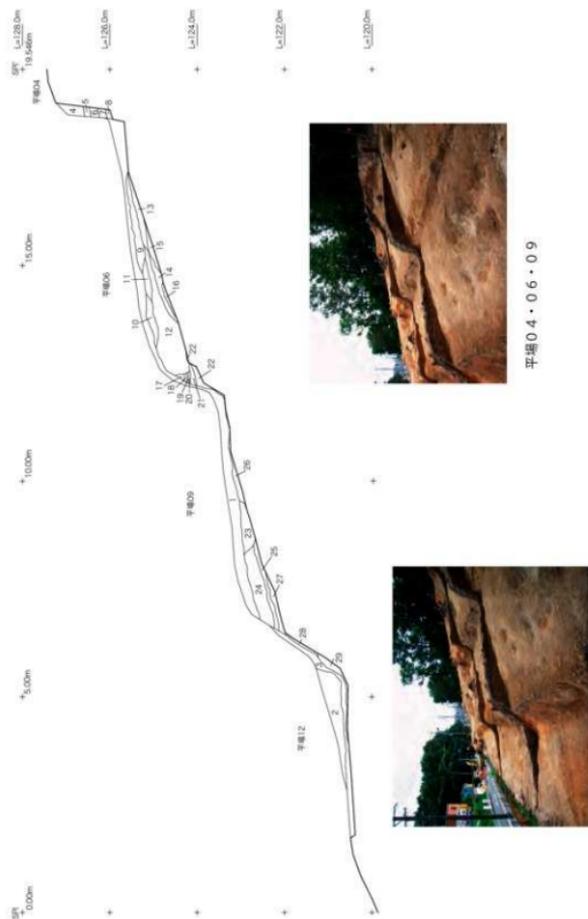
図10 トレンチ02 南壁断面図 (S=1/100)

表2 トレンチ01南壁 土層観察表

層番号	土層色	土色名	土性	混入物等
1	2.9Y5/2	暗灰褐色	シルト	表土層直下の層、植物根を多く含む、2.9Y5/2(暗灰褐色)シルト10%程度含む
2	10Y6/6	暗灰褐色	凝結砂	シルトを4分の1程度含む、粘りあり、粘性ややあり
3	次層			
4	10Y5/3	紅い黄褐色	シルト	10Y5/3(紅い黄褐色)シルト20%含む、直径12cm以下の礫を含む、小礫散見
5	10Y4/2	黄褐色	シルト	凝結砂を多く含む、粘り散見
6	7.5Y6/6	褐色	粘土質シルト	凝結砂15%
7	10Y6/6 ～10Y5/6	暗黄褐色 ～黄褐色	粘土質シルト	凝結砂15%
8	10Y5/2	灰黄褐色	シルト	直径8cm以下の円礫少量、直下の1層に比べて少ない
9	10Y6/4	にがい	シルト	10Y6/4(黄褐色)シルト10%
10	10Y6/6	明黄褐色	シルト	灰白色粘土を少量含む、凝結砂を少量含む、礫を少量含む(11層に比べて少ない)
11	10Y6/6 ～10Y6/4	明黄褐色 ～にがい黄褐色	シルト+砂+礫	砂礫混、直径10cm以下の円礫15%、礫は数(層底片)を散見含む、部分に砂の多い層と礫の多い層が観察に入る
12	10Y6/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	10Y5/3(灰黄褐色)シルト10%
13	10Y6/6	明黄褐色	シルト	10Y6/4(にがい黄褐色)シルト少量、灰色粘土シルト散見含む
14	10Y6/3	にがい黄褐色	シルト	灰褐色粘土を少量含む、灰白色粘土を散見含む、凝結砂少量
15	7.5Y6/4L 10Y6/6の中間色	にがい褐色と明黄褐色との中間色	シルト	10Y5/2(黄褐色)表土直下の層、砂礫混、シルト少量、直径11cm以下の小礫を少量含む
16	10Y6/6	明黄褐色	シルト	直径1～4cm次の円礫2%
17	10Y5/2	黄褐色	粘土質シルト	表土直下の層、粘性あり、粘りあり
18	10Y4/2	灰黄褐色	シルト	砂+礫混
19	10Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1(黄褐色)磁気土を少量含む、植物根を含む
20	10Y6/6	明黄褐色	シルト+砂	直径2cm以下の円礫を含む(11層に比べて少ない)、凝結砂を10%含む、粘りあり、粘性
21～27	土層色以下不明			

表3 トレンチ02南壁 土層観察表

層番号	土層色	土色名	土性	混入物等
1	10Y3/2	黄褐色	シルト	表土層、植物根を多く含む、10Y6/4(にがい黄褐色)シルト10%程度含む
2	10Y3/1	黄褐色	シルト	表土層、植物根と炭屑粒を多く含む、粘り散見、粘性ややあり
3	10Y6/4	にがい黄褐色	シルト	表土層、10Y6/4(にがい黄褐色)シルト15%、礫少量
4	10Y6/3	にがい黄褐色	シルト	表土層、10Y6/4(にがい黄褐色)シルト20%、小礫散見
5	10Y2/2	黄褐色	シルト	表土層、10Y4/2(灰黄褐色)シルト25%、礫少量、植物根を多く含む、粘り散見
6	10Y2/2	黄褐色	シルト	表土層、10Y4/2(灰黄褐色)シルト20%、小礫散見
7	10Y6/4	にがい黄褐色	シルト	10Y6/6(明黄褐色)シルト20%、10Y5/2(灰黄褐色)シルト10%程度、小礫散見
8	10Y6/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	10Y5/2(灰黄褐色)シルト10%程度、小礫散見
9	10Y3/2	黄褐色	シルト	山崩れ層を散見含む、10Y6/2(灰黄褐色)シルト20%、礫少量
10	2.5Y5/3	にがい黄褐色	シルト+凝結砂	直径4cm以下の円礫少量
11	10Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト+礫	地山礫混濁、礫混、10Y6/2(にがい黄褐色)シルト10%、直径10cm以下の円礫10%
12	10Y4/3	にがい黄褐色	シルト	平礫混濁混、10Y5/2(灰黄褐色)シルト5%
13	10Y6/6	明黄褐色	シルト	平礫混濁混、10Y5/2(灰黄褐色)シルト5%
14	10Y4/2	灰黄褐色	シルト	10Y6/4(にがい黄褐色)シルト少量、粘りやや硬質
15	10Y6/4	にがい黄褐色	シルト	10Y6/4(にがい黄褐色)シルト10%、小礫少量、粘りやや硬質
16	10Y3/2	黄褐色	シルト	直径1～4cm次の円礫2%
17	10Y5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘土土層、10Y6/4(にがい黄褐色)シルト25%、粘性あり
18	10Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	SX01181層を砂り1層間に認めれる
19	2.5Y5/3	にがい黄褐色	砂質シルト	凝結砂を多く含む、粘り散見
20	10Y6/3	にがい黄褐色	シルト	直径6cm以下の円礫3%、砂礫を含む、粘性弱
21	10Y6/3	にがい黄褐色	シルト	凝結砂を含む、円礫少量
22	10Y6/4	にがい黄褐色	シルト+礫	地山礫混濁、礫混、10Y5/3(にがい黄褐色)粘土質シルト少量、直径10cm以下の礫を少量含む
23	10Y6/4	にがい黄褐色	シルト	平礫混濁混、山崩れ少量含む、礫を少量含む、10Y5/3(にがい黄褐色)シルト10%、10Y5/2(灰黄褐色)シルト15%、直径10cm以下の円礫少量
24	10Y4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	近表土層、10Y6/3(にがい黄褐色)シルト30%、粘性あり
25	10Y5/2	灰黄褐色	シルト	10Y6/3(にがい黄褐色)シルト20%、粘りあり
26	10Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	斜土礫混濁、山崩れ片を散見含む、2.5Y6/4(にがい黄褐色)シルト20%、円礫散見
27	10Y6/3	にがい黄褐色	シルト+凝結砂	10Y5/2(灰黄褐色)シルト15%
28	10Y6/4	にがい黄褐色	粘土質シルト	10Y4/2(灰黄褐色)シルト5%、直径7cm以下の円礫5%、粘りやや硬質
29	2.5Y5/3	にがい黄褐色	シルト	2.5Y5/3(黄褐色)シルト10%、円礫散見
30	10Y6/4	にがい黄褐色	粘土質シルト	平礫混濁混、10Y5/2(灰黄褐色)シルト15%、直径4cm以下の円礫散見
31	10Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	斜土礫混濁、粘性あり、粘りあり
32	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	平礫混濁混、凝結砂+砂礫を全体に含む、直径3cm以下の円礫散見、粘り散見、粘性やや弱い
33	10Y6/4	にがい黄褐色	粘土質シルト	斜土礫混濁、10Y5/2(灰黄褐色)シルトを少量含む、粘性あり、粘りやや硬質
34	10Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト+礫	地山礫混濁、礫混、10Y4/2(灰黄褐色)シルト10%、直径10cm以下の円礫5%
35	7.5Y6/6	明褐色	粘土質シルト	地山礫混濁、10Y4/2(灰黄褐色)シルト10%、直径10cm以下の円礫3%、5Y5/5(暗黄褐色)シルトブロック散見、粘り散見



平場09・12

図11 ベルト01 東西土層断面図 (S=1/100)

平場04・06・09

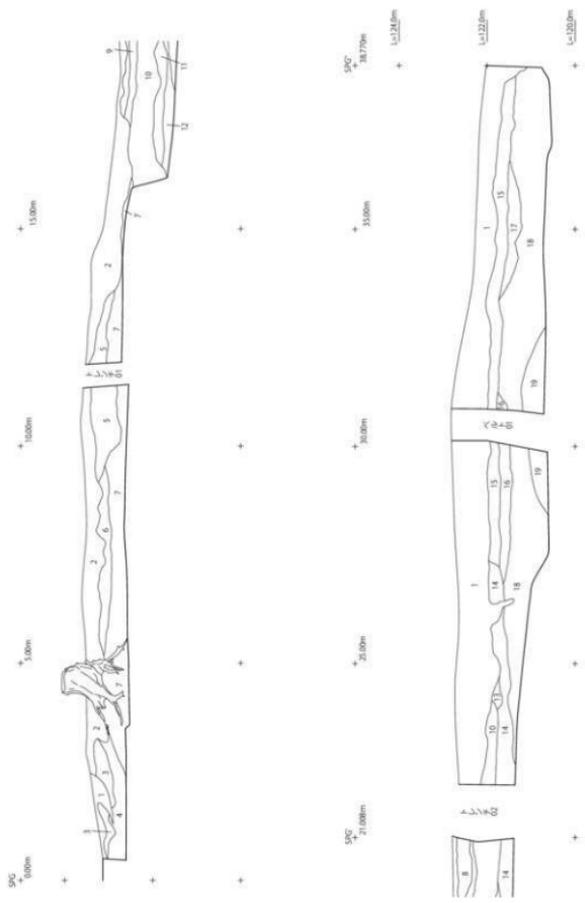


図12 ベルト04南北土原断面図 (S=1/100)

表4 ベルト01東西土層断面 土層観察表

観測号	土層色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2	黄褐色	シルト	硬表土層、腐木の根を多量に含む。腐食植物を多く含む。円礫少量、10YR3/2に多い黄褐色シルト少量
2	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	硬表土層、10YR4/2(黄褐色)シルト15%、円礫少量、植物根を多く含む、ガラクチを含む。
3	5YR4/2	灰黄褐色	シルト	硬表土層、10YR2/2(黄褐色)シルト30%、植物根を多く含む。
4	10YR6/4	紅棕色・黄褐色	シルト	平礫造成層、10YR4/2(黄褐色)シルト10%、10YR6/6(黄褐色)シルト15%、小礫少量
5	10YR4/2	黄褐色	シルト	10YR6/4に多い黄褐色シルト約3%、小礫少量
6	10YR6/4	明黄褐色	シルト	10YR4/2(黄褐色)シルト10%、小礫少量
7	10YR3/2	黄褐色	シルト	硬粘土10%程度含む。硬土層黄褐色。10YR6/3に多い(黄褐色)シルト少量、円礫少量、粘性あり、締り硬質
8	23Y6/3	紅棕色・黄褐色	砂質シルト	10YR5/2(黄褐色)粘土質シルト少量
9	10YR4/3	紅棕色・黄褐色	シルト	平礫造成層、10YR4/2(黄褐色)粘土質シルト少量、小礫少量
10	10YR4/3	紅棕色・黄褐色	シルト	平礫造成層、10YR6/4(黄褐色)粘土質シルト少量、小礫少量
11	10YR6/6	明黄褐色	シルト	10YR4/3に多い黄褐色)シルト13%、小礫少量
12	10YR6/6	明黄褐色	シルト	平礫造成層、10YR6/4(黄褐色)シルトと10YR5/2(黄褐色)シルト等との混在土、植物根を微量含む、山形礫を微量含む。少量平石を散在。締りやや硬質
13	23Y5/3	黄褐色	シルト	斜土層黄褐色、10YR5/2(黄褐色)シルト少量、小礫少量
14	10YR5/2	黄褐色	シルト	10YR5/3に多い黄褐色)シルト11%、直径3cm以下の円礫2%、10YR5/6(明黄褐色)シルトブロック微量
15	10YR6/6	明黄褐色	シルト	地山棕色層、直径3cm以下の円礫少量、締りやや硬質
16	10YR6/6	明黄褐色	シルト	地山棕色層、直径3cm以下の円礫少量、10YR4/2(黄褐色)シルト微量
17	23Y5/3	黄褐色	シルト	10YR6/4に多い黄褐色)シルト5%、小礫少量
18	10YR6/6	明黄褐色	シルト	23Y6/3に多い黄褐色)シルト10%、直径18mm以下の礫少量、10YR5/3に多い黄褐色)シルト微量
19	23Y5/3	黄褐色	シルト	10YR6/4に多い黄褐色)シルト約3%、植物根を含む。小礫少量
20	10YR6/6	明黄褐色	シルト	10YR5/2(黄褐色)シルト少量、10YR5/3(黄褐色)シルト少量
21	23Y5/3	黄褐色	シルト	硬表土層、直径6cm以下の円礫少量、植物根を微量含む。
22	10YR6/6 ～10YR6/4	明黄褐色 ～紅棕色	シルト	山形礫付と植物根を微量含む。混入物を微量含む。小礫を微量含む。
23	10YR6/4	紅棕色・黄褐色	シルト	黄土層を微量含む。小礫を微量含む。10YR5/2(黄褐色)シルト少量
24	10YR6/4	紅棕色・黄褐色	シルト	平礫造成層、10YR4/2(黄褐色)シルト5%、10YR6/6(明黄褐色)シルト2%、直径5cm以下の円礫2%、締りあり
25	23Y5/3	黄褐色	シルト	硬表土層、23Y5/2(黄褐色)シルト20%、直径5cm以下の円礫1%
26	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	地山棕色層、直径5cm以下の円礫2%
27	23Y6/3	紅棕色・黄褐色	砂質シルト	斜土層黄褐色、直径3cm以下の円礫3%、砂粒を多く含む。
28	7.5YR5/6	明褐色	シルト	地山棕色、粘土質シルトを含む。中粒砂・細粒砂を含む。直径6cm以下の円礫少量、締り硬質
29	5YR5/6	明黄褐色	粘土質シルト	地山棕色、10YR6/6(明黄褐色)粘土質シルトを少量含む。締り硬質、粘性弱

表5 ベルト04南北土層断面 土層観察表

観測号	土層色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1	黄褐色	シルト	植物根、腐食植物を多く含む。植物根を多く含む。10YR4/2(黄褐色)シルト20%、小礫少量
2	10YR6/4	紅棕色・黄褐色	シルト	硬表土層、腐食植物を多く含む。10YR5/2(黄褐色)シルトを含む。
3	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜土層黄褐色、小礫少量
4	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜土層黄褐色、10YR2/2(白色)粘土2%、円礫少量
5	10YR6/4 +10YR6/6	紅棕色・黄褐色 +明黄褐色	シルト	平礫造成層、混在土、10YR5/3(黄褐色)シルト10%
6	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜土層黄褐色、10YR6/4(紅棕色・黄褐色)粘土質シルトを含む。円礫少量
7	10YR6/6	明黄褐色	シルト	礫層、直径8cm以下の円礫を多く含む。礫に比較して締りやや硬質
8	10YR6/4	紅棕色・黄褐色	シルト	平礫造成層、10YR4/2(黄褐色)シルト5%、粘性あり
9	10YR5/3	紅棕色・黄褐色	シルト	10YR5/2(黄褐色)シルト10%
10	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜土層黄褐色、植物根を含む。円礫少量、締りやや硬質、粘性あり
11	10YR6/6	明黄褐色	シルト	直径7cm以下の円礫2%
12	10YR6/6	明黄褐色	シルト・細粒砂	直径5cm以下の円礫3%
13	10YR6/4	紅棕色・黄褐色	シルト	10YR4/2(黄褐色)シルト30%
14	23Y6/4 ～10YR6/4	紅棕色・黄褐色 ～紅棕色・黄褐色	シルト	砂粒を多く含む。円礫少量、円礫少量
15	10YR5/4	紅棕色・黄褐色	シルト	直径4cm以下の円礫2%
16	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR5/3に多い黄褐色)シルト20%、直径7cm以下の円礫4%
17	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	10YR6/3に多い黄褐色)シルト10%
18	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	地山棕色、直径2.5YR5/6(明褐色)シルト15%、直径11cm以下の円礫少量、締り硬質、粘性弱
19	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	2.5YR5/2(白色)粘土を微量含む。5YR4/6(赤褐色)細粒砂10%

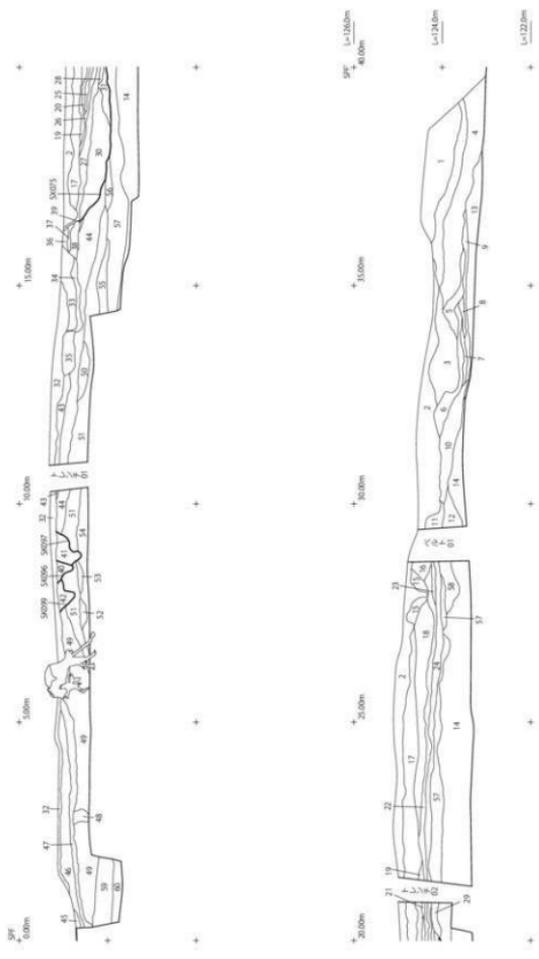


図13 ベルト-03 南北土層断面図 (S=1/100)

表6 ベルト03南北土層断面 土層観察表

層番号	土層色	土層名	土性	主な物等
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	堆積の土質、腐植物も多く含む、10YR4/2(灰黄褐色)シルト10%
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	腐敗土層、腐植土・腐敗植物も多く含む、植物性も多く含む
3	10YR5/3	灰土黄褐色	シルト	平場土層、山崩りにも影響含む、褐色片も観察含む、10YR4/2(灰黄褐色)シルト粒・ブロック25%、 直径0.5cm以下の礫少量
4	10YR5/3	灰土黄褐色	シルト	10YR5/3(灰土黄褐色)シルト20%含む、直径12cm次の礫を含む、小礫少量
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(灰土黄褐色)シルト10%、直径8cm以下の礫も観察含む、細粒砂を含む
6	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	腐敗土層、10YR5/2(灰土黄褐色)シルト5%、河原も観察含む
7	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	シルト・ブロック少量、小礫少量、10YR4/2(灰黄褐色)シルト10%
8	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	小礫少量、10YR4/2(灰黄褐色)シルト20%、粘りあり
9	10YR5/3	灰土黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト10%
10	10YR5/3	灰土黄褐色	シルト・細粒砂	小礫少量
11	10YR6/4 10YR5/2	灰土黄褐色	シルト	2種類のシルトが混入する
12	2.5YR/3	灰土黄褐色	シルト	砂粒も少量含む、粘土質シルトも少量含む、直径4cm以下の礫少量
13	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト・細粒砂	小礫少量
14	10YR6/6	暗褐色	シルト・砂・礫	砂質シルト少量、直径11cm以下の小礫も少量含む、基盤層
15	10YR5/4	灰土黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルトの集中層が散在する
16	10YR5/3	灰土黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、小礫少量
17	10YR5/4	灰土黄褐色	シルト	平場土層、直径3cm以下の礫3%含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
18	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	直径0.5cm以下の礫も3%含む、10YR4/2(灰黄褐色)シルト20%
19	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(灰土黄褐色)シルト少量含む
20	10YR5/4	灰土黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量含む
21	10YR5/4	灰土黄褐色	シルト	細粒砂も少量含む
22	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(灰土黄褐色)シルト少量含む
23	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
24	10YR5/4	灰土黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
25	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/4(灰土黄褐色)シルト7%
26	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	細粒砂質
27	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	腐敗土層、10YR6/4(灰土黄褐色)シルト少量、粘りあり
28	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	細粒砂を含む、濃縮の可能性あり、SX075を含む
29	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	小礫少量、粘りあり
30	10YR6/6	暗褐色	粘土質シルト	鉄屑少量、10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、細粒砂を含む、緑やや砂質、粘りあり、SX075の上層
31	10YR6/6	暗褐色	粘土質シルト	褐色片も少量含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、細粒砂を含む、緑やや砂質、粘りあり、SX075の下層
32	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	表土層、10YR4/1(黄褐色)シルト15%
33	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト・細粒砂	直径4cm以下の礫も少量含む
34	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト・細粒砂	直径6cm以下の礫3%含む
35	10YR6/4	灰土黄褐色	粘土質シルト	直径3cm以下の礫も少量含む
36	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/4(灰土黄褐色)シルト10%
37	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	砂質少量
38	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	砂質少量
39	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	砂質少量
40	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%
41	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%
42	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂15%
43	10YR6/6	暗褐色	細粒砂・シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂15%
44	10YR6/6	暗褐色	細粒砂・シルト	中粒砂も少量含む、腐植質、緑やや砂質
45	10YR3/2	黒褐色	シルト	小礫粒の表土層、腐植物も多く含む、植物性も多く含む
46	10YR6/6	暗褐色	シルト	鉄屑少量、中粒以下に粘り、直径7cm以下の礫少量、10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量
47	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	腐敗土層、10YR6/4(灰土黄褐色)シルト25%
48	10YR6/4	灰土黄褐色	砂・礫	砂質、直径4cm以下の礫40%
49	10YR6/6	暗褐色	シルト	鉄屑少量、中粒以下に粘り、直径7cm以下の礫少量、10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量
50	10YR6/4	灰土黄褐色	砂・礫	砂質、直径7cm以下の礫30%
51	10YR6/6	暗褐色	細粒砂・シルト	砂質、直径5cm以下の礫30%
52	10YR6/4	灰土黄褐色	砂・礫	砂質、直径4cm以下の礫40%
53	10YR6/4 →10YR6/6	灰土黄褐色 →暗褐色	細粒砂	灰色粘土・ブロック散在、褐色粒少量、粘土質シルトを含む、やや粘りあり
55	10YR6/6	暗褐色	シルト	鉄屑少量、直径7cm以下の礫2%
56	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト・細粒砂	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、砂質少量
57	10YR6/4	灰土黄褐色	シルト	砂質少量
58	2.5YR/3	黒褐色	シルト・細粒砂	直径5cm以下の礫少量
59	10YR7/4	黄褐色	砂質シルト	砂粒も含む、直径0.5cm以下の礫も5%含む、緑り観察、やや粘りあり
60	10YR6/6	暗褐色	粘土質シルト	砂粒も含む、直径0.5cm以下の礫も5%含む、緑り観察、やや粘りあり

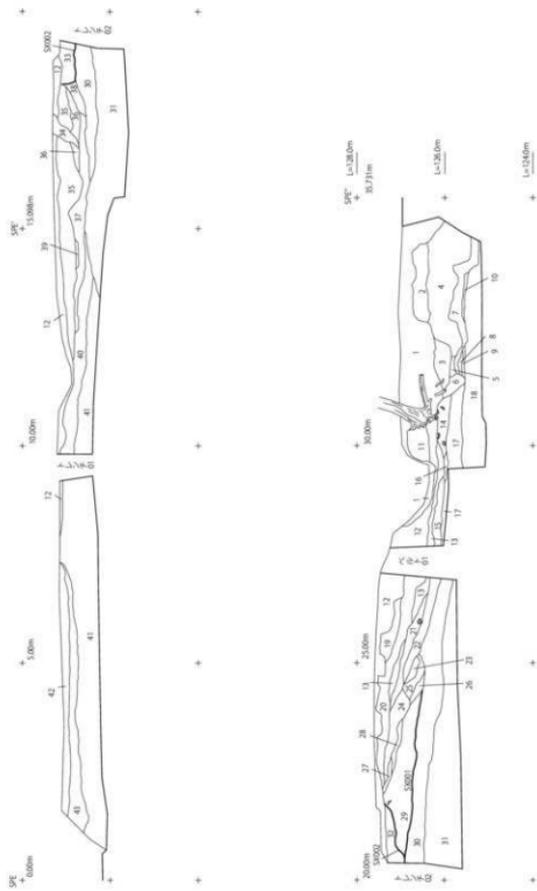


図14 ベルト02南北土層断面図 (S=1/100)

表7 ベルト02 南北土層断面 土層観察表

調査号	土層色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2	黄褐色	シルト	泥状土塊、薪木の根を手摺に含む
2	7.5YR6/4	にじい-橙色	粘土質シルト	10YR6/4ににじい-黄褐色)シルト10%、小礫微量
3	5YR6/4	にじい-橙色	粘土質シルト	直径30cm以下の礫少量
4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	7.5YR6/4ににじい-橙色)シルト8%、炭化物1%
5	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/4ににじい-黄褐色)シルト10%、小礫微量
6	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	小礫微量
7	5YR6/4	にじい-橙色	粘土質シルトブロック	10YR4/2(灰黄褐色)シルト25%
8	5YR6/4	にじい-橙色	粘土質シルト	10YR5/2(灰黄褐色)粘土質シルト少量
9	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4ににじい-黄褐色)粘土質シルト少量、旧表土直下の層か
10	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4ににじい-黄褐色)粘土質シルト少量、旧表土直下の層か
11	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4ににじい-黄褐色)シルト5%、小礫微量
12	10YR5/3	にじい-黄褐色	粘土質シルト	表土直下の層、細粒砂を含む、腐殖土を少量含む、餅リヤや軟質
13	7.5YR6/4 ～10YR6/4	にじい-橙色 ～にじい-黄褐色	粘土質シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト2%、小礫微量
14	7.5YR6/4 ～10YR6/4	にじい-橙色 ～にじい-黄褐色	粘土質シルト	山系崩れを構築含む、焼石を少量含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト4-20%
15	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	山系崩れと焼石片を少量含む、炭化物を微量含む、焼成粘土塊を微量含む、10YR6/2(灰黄褐色)灰を含む 細粒砂を含む、10YR6/4(にじい-黄褐色)粘土質シルト15%
16	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト-細粒砂を含む、小礫微量、10YR5/3(にじい-黄褐色)粘土質シルト10%
17	2.5YR3/3	にじい-黄色	シルト	2.5YR3/3(にじい-黄色)シルト10%、直径18cm以下の礫微量、10YR5/3(にじい-黄褐色)シルト微量
18	10YR6/4	にじい-黄褐色	シルト	細粒砂を含む、小礫微量
19	10YR6/4 ～10YR6/5	にじい-黄褐色 ～明黄褐色	シルト	細粒砂を含む、小礫微量
20	10YR6/4	にじい-黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、10YR5/3(にじい-黄褐色)シルト少量
21	10YR6/3	にじい-黄褐色	粘土質シルト	山系崩れを含む、炭化物を微量含む、焼成粘土塊を微量含む
22	10YR5/3	にじい-黄褐色	シルト	山系崩れと焼石片を微量含む、炭化物を微量含む、小礫を微量含む
23	10YR5/3	にじい-黄褐色	シルト	炭化物を微量含む、小礫を微量含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量
24	10YR6/3	にじい-黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3(明黄褐色)粘土質シルト10%、焼石片を微量含む、炭化物を微量含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト15%
25	10YR5/3	にじい-黄褐色	シルト	焼石片を微量含む、山系崩れを微量含む、炭化物を微量含む、小礫微量
26	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	小礫微量
27	10YR5/3	にじい-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)粘土質シルト10%、小礫微量
28	10YR5/3	にじい-黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)粘土質シルト20%、小礫微量
29	10YR5/3	にじい-黄褐色	シルト	焼石片を微量含む、焼成土塊を含む、炭化物を少量含む
30	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト	細粒砂10%
31	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	直径1～12cm次の礫少量、10YR6/5(明黄褐色)細粒砂ブロック微量
32	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	植物根を多数含む、小礫少量、餅-硬質
33	10YR5/3	にじい-黄褐色	シルト	焼石片を少量含む、山系崩れを微量含む、餅リヤ散見
34	10YR5/3	にじい-黄褐色	シルト	植物根跡、10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
35	10YR6/3	にじい-黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト30%、粘土質シルト-細粒砂を少量含む、粘性あり
36	10YR6/4	にじい-黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、礫微量
37	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	礫微量
38	10YR6/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(にじい-黄褐色)シルト少量、小礫微量、粘性あり
39	10YR6/4	にじい-黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)粘土質シルト少量
40	10YR6/6	明黄褐色	シルト	粘土質シルト-細粒砂を含む、小礫微量、10YR5/3(にじい-黄褐色)粘土質シルト5%
41	10YR6/6	明黄褐色	シルト	直径15～40cm次の円礫7%、餅リヤあり
42	10YR6/6	明黄褐色	シルト	直径15cm以下の礫1%
43	10YR5/2	灰黄褐色	餅-硬	餅硬質、直径120cm以下の円礫30%、10YR5/1(黄褐色)シルト少量



ベルト03 清掃風景



ベルト02 清掃風景

第2節 遺構

調査の結果、小穴・土坑・溝など総数105の遺構を検出した。しかし、小穴は規則的に配列された様子はみられず、小穴や土坑の多くは自然木痕と考えられる。溝も埋土に近代の陶器片を含むもの(SD101)があることから、多くは近代以降の自然地形と考えられる。調査区内から窯業生産に関わる明確な遺構としては、灰原の一部である焼台集積遺構(SX001)を検出したのみで、窯体や作業場などは検出されなかった。

(1) SX001

調査区西端中央、最上段である平場04で検出した焼台集積遺構である。遺構の東端は平場造成時に削平され残存せず、西端は調査区外に続き確認できず、南端はSX002と重なり不明瞭であるため、端部が確認できるのは北端のみである。残存部分は長軸265cm、短軸190cm、深さ65cmを測る。埋土は3層に分かれ、上層のふい黄褐色シルト層と中層のふい黄褐色シルト層は山茶碗片と焼台片を大量に含む。下層の黒褐色シルト層は炭化物粒を含む灰層で、山茶碗片や焼台片の量は多くない。灰層下にみられるふい黄色砂質シルト層は無遺物層であるため、遺構の埋土ではなく、含まれる黒褐色シルトは上層の染み込みと考えられる。出土遺物が山茶碗と小皿のみで古瀬戸を含まないこと、焼台が青灰色のもののみで赤褐色のものを含まないことから、山茶碗焼成時に形成された灰原の一部と考える。なお、遺構から出土した炭化材の樹種同定と放射性炭素年代測定を実施している(第4章 理科学的分析)。

(2) SX002

調査区西端中央、最上段である平場04で検出した焼台集積遺構である。遺構の東端は平場造成時に削平され残存していない。残存部分は長軸323.4cm、短軸180.5cm、深さ64cmを測る。埋土は暗褐色シルトで、山茶碗片と焼台片を大量に含む。トレンチ02付近でSX001と重なるが、SX001の上層に位置する。表土直下で検出したため、平場造成層の可能性も考えたが、SX001と同様に出土遺物が山茶碗と小皿のみで古瀬戸を含まないこと、焼台が青灰色のもののみで赤褐色のものを含まないことから、山茶碗焼成時に形成された灰原の一部と考える。なお、山茶碗の底部から剥離した高台片が大量に出土していることから、この付近で焼成後、山茶碗から高台を分離する作業を行っていたと思われる。

(3) SX018

平場06・07の調査を進めて行くと、平場造成層の下から灰黄褐色粘土質シルト層が現れた。平場造成前の表土層であるが、灰原の可能性があるので、SX018と名づけて遺物を取り上げた。出土遺物は、山茶碗・小皿の他に、陶丸や古瀬戸の四耳壺・瓶子・鉀皿などがある。

(4) SX019

平場06の中央、SX018の下層で検出した土坑である。トレンチ02により南端は不明であるが、長軸残存226cm、短軸195.8cm、深さ69.2cmを測る。埋土は3層に分かれるが、遺物が出土するのは上層の明黄褐色シルト層のみである。埋土の状態から土坑は窯業生産開始以前の風倒木などによりできた自然の凹みで、窯業生産が開始された時には、下2層はすでに埋まり浅い凹みになっており、そこに廃棄された焼成失敗品が堆積したものと考えられる。出土遺物は、山茶碗・小皿、陶丸、古瀬戸の四耳壺・瓶子・鉀皿などがある。出土した焼台の中に赤褐色の焼台が含まれることから、出土した古瀬戸製品は搬入品ではなく、この地で焼成されたものである。



図15 遺構平面図 (S=1/200)

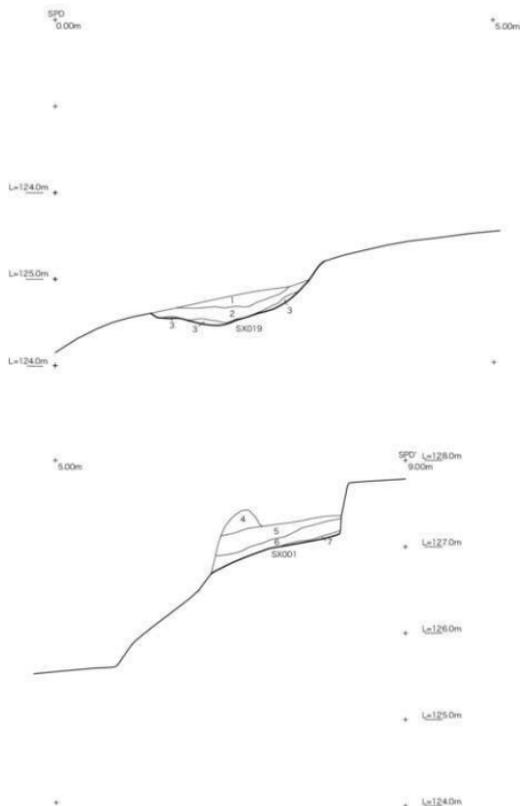


図16 SX001・SX019東西土層断面図 (S=1/50)

表8 SX001・SX019東西土層断面 土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR6/6	明黄褐色	シルト	焼土片・山系腐片を多く含む。赤練土を微量含む。深径7cm以下の浮腫を少量含む。
2	10YR6/4	にぶい黄褐色	シルト	砂粒を10%程度含む。深径4cm以下の浮腫を含む。10YR3/1にぶい黄褐色シルトを10%含む。
3	10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	深径6cm以下の浮腫を微量含む。
4	10YR6/4	にぶい黄褐色	シルト	山系腐片を多く含む。焼土片を少量含む。炭化物なし。練り増量。遺物の腐敗に植物根が多く入る。
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト・焼土片	焼土片を多数含む。10YR4/2(明黄褐色)シルト10%。練り増量。焼土片の腐敗に植物根が多く入る。
6	10YR2/2	黄褐色	シルト	灰層。焼土片を少量含む。山系腐片を含む。炭化物粒を含む。焼土粒を微量含む。径3cm以下層若干あり。10YR4/3にぶい黄褐色シルトを微量含む。粘性あり。練りや中軟質。
7	2.5YR/4	にぶい赤色	砂質シルト	細粒砂質。10YR2/2(黄褐色)シルト微量含む。10YR6/6(明黄褐色)シルトブロックを微量含む。深径4cm以下の浮腫を微量含む。

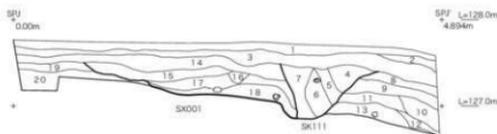


図17 西壁南北土層 (1) 断面図 (S=1/50)

表9 西壁南北土層 (1) 断面 土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR5/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	表土層下の層、細粒砂を含む。腐植土を少量含む。硬さを少量含む。練りやや軟質 (P66-02012)と連続
2	10YR6/4 ~10YR6/6	にじみ黄褐色 ~暗黄褐色	シルト	細粒砂を含む。小礫混入 (P66-02019)と連続
3	10YR6/4	にじみ黄褐色	シルト	10YR5/2 (灰黄褐色)シルト少量、10YR5/3 (にじみ黄褐色)シルト少量 (P66-02020)と連続
4	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	山原礫片を微量含む。10YR6/3 (にじみ黄褐色)シルト15%、内礫を少量含む。SK111の層
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/3 (にじみ黄褐色)シルト10%、内礫を少量含む。炭化植物を少量含む。SK111の層
6	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	山原礫片を微量含む。練り砂片を微量含む。10YR6/3 (にじみ黄褐色)シルト40%、内礫を少量含む。SK111の層
7	10YR6/4	にじみ黄褐色	シルト	砂粒を含む。10YR4/2 (灰黄褐色)粘土質シルト5%、10YR6/4 (にじみ黄褐色)シルト10%、内礫を少量含む。SK111の層
8	7.5YR6/4 ~10YR6/4	にじみ黄褐色 ~にじみ黄褐色	粘土質シルト ~シルト	10YR5/2 (灰黄褐色)シルト3%、小礫混入 (P66-02013)と連続
9	10YR6/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	山原礫片を含む。炭化植物を微量含む。練り砂片を微量含む (P66-02021)と連続
10	10YR6/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	10YR5/7 (暗褐色)粘土質シルト10%、練り砂片を微量含む。炭化植物を微量含む。10YR5/2 (灰黄褐色)シルト15% (P66-02024)と連続
11	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/3 (にじみ黄褐色)シルト15%、内礫を少量含む
12	10YR6/3	にじみ黄褐色	シルト	10YR6/3 (にじみ黄褐色)シルト微量、内礫を微量含む
13	10YR5/3	にじみ黄褐色	シルト	山原礫片を微量含む。7.5YR5/4 (にじみ黄褐色)シルト微量、10YR5/2 (灰黄褐色)シルト10%、内礫を微量含む
14	10YR6/4	にじみ黄褐色	シルト	山原礫片を少量含む。練り砂片を少量含む。直径8cm以下の内礫を少量含む。練り砂質。炭化植物が平直
15	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	上面に腐植層が多くなる。10YR4/2 (灰黄褐色)シルト10%、練り砂質。直径8cm以下の内礫を微量含む
16	7.5YR5/3	にじみ黄褐色	シルト	褐色粘土層を含む。10YR4/2 (灰黄褐色)シルト3%、練り砂質。練り砂質
17	10YR3/2	黄褐色	シルト	灰土。練り砂片を少量含む。山原礫片を微量含む。炭化植物を含む。練り砂質。10YR4/3 (にじみ黄褐色)シルトを微量含む。粘性あり。練りやや軟質
18	2.5YR4/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	自然降伏の塊状山原礫片を含む。10YR2/2 (濃褐色)シルトを微量含む。10YR6/6 (暗黄褐色)シルトブロックを微量含む。直径4cm以下の内礫を微量含む
19	2.5YR4	にじみ黄褐色	シルト	砂質土層。砂粒を含む。直径4cm以下の内礫を微量含む。粘性弱
20	10YR6/4	にじみ黄褐色	シルト+礫	地山。直径7cm以下の内礫を多く含む。砂粒を少量含む。練り硬質。粘性弱

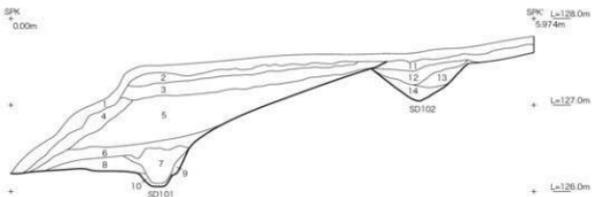


図18 西壁南北土層 (2) 断面図 (S=1/50)

表10 西壁南北土層 (2) 断面 土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR5/3	黄褐色	シルト	灰土層。10YR5/3 (にじみ黄褐色)シルト15%。炭化物を多く含む。内礫を微量含む
2	10YR5/3	にじみ黄褐色	シルト	表土層下の層。10YR3/2 (濃褐色)シルト30%。炭化物を少量含む。内礫を微量含む。SD101層
3	10YR6/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	10YR6/3 (にじみ黄褐色)砂質シルト少量。直径8cm以下の内礫を微量含む。練り砂質。粘性弱。SD101層土
4	10YR6/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	10YR6/4 (にじみ黄褐色)砂質シルト少量。直径8cm以下の内礫を微量含む。練り砂質。粘性弱。SD101層土
5	10YR6/6	暗黄褐色	礫	礫層。平均粒径は、直径1cm前後~4cm以下の内礫主体。砂粒を少量含む。10YR5/2 (灰黄褐色)シルト3%。練り砂り。粘性なし。SD101層土
6	2.5YR3/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	直径8cm以下の内礫を微量含む。10YR4/2 (灰黄褐色)シルト少量。SD101層土
7	7.5YR6/3	にじみ黄褐色	細粒砂	活性炭。練り砂質。粘性弱。SD101層土
8	10YR5/3	にじみ黄褐色	シルト	砂粒を10%程度含む。直径4cm以下の内礫を含む。10YR4/2 (灰黄褐色)シルト10%。SD101層土
9	10YR5/3	にじみ黄褐色	シルト	砂粒を少量含む。直径4cm以下の内礫を含む。10YR4/2 (灰黄褐色)シルト15%。SD101層土
10	10YR5/6	暗黄褐色	粘土質シルト+礫	表土層下の層。直径10cm以下の内礫を10%程度含む。SD101層土
11	10YR6/6	暗黄褐色	シルト	表土層下の層。10YR2/2 (濃褐色)シルト15%、10YR5/2 (灰黄褐色)シルト5%。炭化物を少量含む。内礫を微量含む
12	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/4 (にじみ黄褐色)シルト10%。内礫を微量含む。SD102層土
13	10YR6/4	にじみ黄褐色	シルト	10YR4/2 (灰黄褐色)シルト40%。直径4cm以下の内礫を微量含む。SD102層土
14	10YR4/2	灰黄褐色	礫	礫層。直径1cm以下の内礫。10YR6/6 (暗黄褐色)シルトブロック少量。SD102層土

表 1-1 遺構一覧表

遺構 No.	略号	種別	平場	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	覆土色調	覆土土性	遺入物・備考	時期
001	SX	土坑 (灰層)	04	1D19q	現存 265.0	現存 190.0	65.0	不明	圓形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト・ 焼石片	焼物集積地。焼石直径 7 ~ 15cm。 山茶碗片を多く含む。 炭化物を微量含む。	中世
002	SX	土坑	04	1D19q ~ 1D20q	現存 323.4	現存 180.5	64.0	半月形	圓形	10YR5/3 (黄褐色)	シルト	山茶碗片を多く含む。 焼石片を多く含む。小礫少量	中世
003	SX	平場 造成 層	03 ~ 04	1D20q ~ 2D1q	現存 852.5	現存 191.0	80.0	不整形	不整形	上層：10YR4/2 (灰黄褐色) 下層：10YR6/6 (明黄褐色)	上層： シルト 下層： 礫・シルト	上層： 山茶碗片を多く含む。小礫少量 砂礫を含む。下層の礫り硬質	
004	SD	溝状 遺構	04	1D20q	現存 182	38.1	21.0	溝状	不整 U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	粘土質 シルト	山茶碗片出土。小礫少量。 10YR3/2(黒褐色)シルト微量	
005	SK	土坑	04	1D20g	93.5	85.2	16.5	不整 台形	不整 圓形	10YR4/2 (灰黄褐色)	粘土質 シルト	炭付(人工コルク?)磁器片出土。 10YR6/6(明黄褐色)シルト 5%。 植物屑を多く含む。	近世
006	SK	小穴	03	1D20q	42.4	30.5	13.0	楕円形	不整 U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	粘土質 シルト	砂礫少量。10YR5/5(にぶい・黄褐色) 粘土質シルト 10%	
007	SK	小穴	03	1D20g ~ 2D1g	69.9	37.7	14.0	楕円形	圓形	10YR3/2 (黄褐色)	粘土質 シルト	10YR6/6(明黄褐色)シルト 5%	
008	SK	小穴	03	2D1q	67.2	50.5	11.1	不整 楕円形	圓形	10YR4/2 (灰黄褐色)	粘土質 シルト	砂礫 5%。7.5YR4/6(棕色) 磁器片・ブロッコウ微量	
009	SD	溝状 遺構	03	2D1q	212.5	58.8	20.3	溝状	U字形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト	山茶碗片出土。10YR4/2(灰黄褐色) 粘土質シルト 10%。 直径 6cm 以下の小礫少量	
010	SK	小穴	03	2D1q	36.3	31.0	25.9	不整 円形	U字形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト	炭化物出土。 10YR6/6(明黄褐色)シルト 25% 10YR4/2(灰黄褐色)	近世
011	SK	小穴	03	2D2q	46.6	40.5	8.1	不整 円形	不整 圓形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	粘土質シルト 10%。小礫少量 10YR6/4(にぶい・黄褐色) 粘土質シルト 20%。	
012	SK	小穴	03	2D2q	57.9	49.0	15.0	楕円形	浅い U字形	10YR6/6 (明黄褐色)	シルト	10YR6/6(にぶい・黄褐色) 粘土質シルト 20%。	
013	SK	土坑	03	2D2q	95.6	86.4	17.0	楕円形	圓形	10YR6/6 (明黄褐色)	粘土質 シルト	10YR5/4(にぶい・黄褐色) シルト 15%。小礫少量	
014												欠番	
015												欠番	
016												欠番	
017	SK	小穴	03	2D3q	36.0	32.5	8.5	不整 楕円形	浅い U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	SD101 を切る。小礫微量	
018	SX	田表 土層	06 ~ 07	1D16q ~ 1D16 r ~ 1D20r ~ 1D20s	現存 2498.5	現存 530.0	195.5	不整形	不整形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	山茶碗片・古瀬戸片・ 焼石片を多く含む。 直径 9cm 以下の礫を含む。 10YR5/2(灰黄褐色)シルト 20%	
019	SX	土坑	06	1D19r	現存 226.0	195.8	69.2	楕円形	浅い U字形	上層：10YR6/6 (明黄褐色) 下層：10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	上層・下層： シルト	上層に山茶碗片・古瀬戸片・焼石片 を多く含む。 直径 7 cm 以下の円礫少量	中世
020												欠番	
021	SK	土坑	07	1D16q	69.5	50.1	16.3	不整 楕円形	圓形	2.5Y5/2 (暗黄褐色)	シルト	山茶碗片出土。2.5Y3/2(黒褐色) シルト 5%	
022	SK	小穴	07	1D17r	29.5	24.8	14.0	楕円形	浅い U字形	2.5YR5/3 (黄褐色)	シルト	2.5Y7/3(浅黄褐色)シルト 10%。 5YR5/6(明赤褐色)粘土質シルト ブロッコウ微量。SX018 下に検出	
023	SK	小穴	07	1D17r	48.8	31.0	21.4	楕円形	V字形	2.5YR5/3 (黄褐色)	シルト	2.5Y7/3(浅黄褐色)シルト 15%。 5YR5/6(明赤褐色)粘土質シルト ブロッコウ微量。SX018 下に検出	
024	SK	小穴	07	1D17r	26.1	20.4	17.5	楕円形	U字形	2.5YR5/3 (黄褐色)	シルト	山茶碗片出土。2.5Y7/3(浅黄褐色) シルト 20%	
025	SK	小穴	07	1D17r	45.2	31.7	16.2	楕円形	U字形	2.5YR5/2 (灰黄褐色)	シルト	2.5Y7/3(浅黄褐色)シルト 10%	
026												欠番	
027	SK	小穴	06	1D18r	80.8	62.8	24.0	不整 菱形	浅い U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	炭化物微量。小礫含む	
028	SK	小穴	06	1D18r	21.5	19.9	23.5	円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	炭化物微量。小礫含む。 5YR4/6(赤褐色)シルト微量	
029	SK	小穴	06	1D18r	26.5	23.1	6.1	楕円形	圓形	10YR/3 (にぶい・黄褐色)	シルト	小礫含む	

通積 No.	略号	種別	年端	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	覆土色調	覆土土質	遮入物・備考	時期
030	SK	小穴	06	1D18r	37.9	28.5	9.8	不整 楕円形	不整直形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト	小礫含む	
031	SK	小穴	06	1D18r	26.2	23.5	3.2	円形	圓形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト	赤鉄片出土	
032	SK	小穴	06	1D19r	28.3	22.2	5.6	楕円形	圓形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト		
033	SK	小穴	06	1D19r	46.9	39.3	10.3	円形	浅い U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	SK034に切られる。炭化物・焼土粒 数個。直径2.5cm以下の礫少量、 10YR6/4(にぶい・黄褐色)シルト少量	
034	SK	小穴	06	1D19r	36.1	25.0	5.6	楕円形	圓形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	SK033を切る。炭化物・焼土粒数個。 直径2cm以下の礫少量	
035	SK	小穴	06	1D20r	22.2	21.0	23.5	円形	U字形	10YR5/2 (灰黄褐色)	シルト	10YR5/3(にぶい・黄褐色)シルト少量	
036	SK	小穴	06	1D20r	53.2	50.1	21.5	不整形	U字形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト	山茶碗片出土。 10YR6/6(明黄褐色) 細粒砂少量。 直径5cm以下の礫数個	
037	SK	小穴	05	2D1s	34.2	30.5	8.4	楕円形	圓形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	灰白色粘土粒1%	
038	SK	小穴	05	2D1s	59.6	43.0	8.5	卵形	浅い U字形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR6/4(明黄褐色) 細粒砂 10%	
039	SK	小穴	05	2D1s	残存 47	30.9	12.0	丸丸 長方形	浅い U字形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR6/4(明黄褐色) 細粒砂 15%	
040	SK	小穴	05	2D1s	39.4	34.3	9.8	円形	浅い U字形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	灰白色粘土粒2%散在	
041	SK	小穴	05	2D1r	30.5	20.0	3.9	楕円形	圓形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	灰白色粘土粒2%散在	
042	SK	小穴	05	2D1q・2D 2q・2D 1r・2D2r	56.5	35.0	24.5	楕円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	10YR6/6 (明黄褐色) シルト30%、 小礫少量	
043	SK	土坑	05	2D1r ～ 2D2r	84.2	68.5	17.1	不整 楕円形	浅い U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	細粒砂	直径0.5～7cm大の礫7%、 2.5Y5/3(黄褐色)シルト7%	
044	SK	土坑	05	2D2r	42.2	36.4	11.3	不整 溝状	不整 U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	細粒砂	直径4～6cm大の礫5%、 2.5Y5/3(黄褐色)シルト5%	
045	SK	小穴	05	2D2r	30.2	28.0	10.9	円形	U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	細粒砂	2.5Y5/3(黄褐色)シルト少量、 2.5Y4/7(暗灰褐色)シルト少量	
046	SK	小穴	05	2D1r ～ 2D2r	30.4	26.4	28.0	楕円形	U字形	2.5Y5/4 (黄褐色)	シルト	10YR6/6(明黄褐色) 細粒砂 20%、 鉄屑を数個含む、 炭化物炭化物(糊状?)	
047	SK	土坑	05	2D2r	46.8	41.9	16.5	不整 溝状	不整 U字形	10YR6/6 (明黄褐色)	細粒砂	直径0.3～4.5cm大の礫3%	
048	SK	小穴	05	2D2r	38.0	34.5	19.9	不整形	U字形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR6/6(明黄褐色) 細粒砂 20%	
049	SK	土坑	05	2D2r ～ 2D2s	207.0	109.5	56.2	不整形	U字形～ V字形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	山茶碗片出土。10YR5/3 (にぶい・ 黄褐色)シルト10%、10YR6/6 (明黄褐色) 細粒砂 20%、餅状土	
050	SK	小穴	05	2D2r	38.0	21.2	20.0	楕円形	U字形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR3/2(黒褐色)粘土質シルト少量、 直径4cm以下の礫少量	
051	SK	小穴	05	2D2r ～ 2D3r	33.6	31.6	18.1	円形	U字形	10YR5/6(黄褐色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)シルト少量、 餅り数個	
052	SK	小穴	05	2D3r	35.5	27.8	8.2	楕円形	浅い U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	直径3cm以下の礫少量	
053	SK	小穴	05	2D3r	20.7	19.2	6.6	円形	浅い U字形	10YR5/3 (にぶい・黄褐色)	粘土質	10YR5/6(黄褐色) 粘土質シルト 30%、直径3cm以下の礫少量	
054	SK	小穴	05	2D3r	52.0	44.3	14.5	楕円形	不整形	10YR4/2 (灰黄褐色)	粘土質 シルト	10YR5/6(黄褐色) 粘土質シルト 25%、直径9cm以下の円礫5%	
055	SX	田舎 土塚		1D20r・1D 20s・2D 2r・2D2s	805.5	455.0	116.0	不整形	不整形	10YR6/4 (にぶい・ 黄褐色)～10YR 6/6(明黄褐色)	シルト	土層に10YR4/3(にぶい・黄褐色) シルトを多く含む。 直径7cm以下の小礫少量	
056	SX	田舎 土塚		2D2r・2D 2s・2D 3r・2D3s	612.6	457.4	129.6	不整形	不整形	10YR6/4 (にぶい・ 黄褐色)～10YR 6/6(明黄褐色)	シルト	直径8cm以下の礫を少量含む	
057	SK	小穴	05	2D1r	115.8	78.6	38.9	不整 楕円形	U字形	10YR6/4 (にぶい・ 黄褐色)～10YR 6/6(明黄褐色)	シルト	小礫少量、SX055との切り合い(不明)	
058	SK	土坑	08	2D3s	94.5	65.0	9.2	丸丸 長方形	U字形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR5/2～4/2 (灰黄褐色)シルト 20%、直径2cm以下の礫数個	

通積 No.	地号	種別	平場	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	高さ (cm)	宇流形	新面形	覆土色調	覆土土性	混入物・備考	時期
059	SK	小穴	08	2D2s	53.8	31.9	18.0	不整 楕円形	浅い U字形	10YR5/4 (にぶい黄褐色)	シルト	10YR6/6(明黄褐色) 細粒砂 20%、 灰白色粘土粒微量	
060	SK	土坑	08	2D2s	211.9	176.5	54.6	不整 楕円形	不整 皿形	上層: 10YR6/6 (明黄褐色) 下層: 10YR4/2 (灰黄褐色)	上層: 細粒砂 下層: シルト	10YR4/2(灰黄褐色) 細粒砂微量、 直径 6cm 以下の礫多量、樹木腐	
061	SK	小穴	09	1D19s	残存 63.0	53.1	11.5	楕円形	皿形	10YR5/4 (にぶい黄褐色)	シルト	直径 4 cm 以下の円礫 10%	
062	SK	小穴	09	1D19s	49.0	14.5	29.3	円形	有段 U字形	10YR5/4 (にぶい黄褐色)	シルト	直径 6 cm 以下の円礫 3%	
063	SK	小穴	09	1D19s	52.1	44.5	10.9	楕円形	浅い U字形	10YR5/6(黄褐色)	シルト	直径 6 cm 以下の円礫 5%、 10YR6/6(明黄褐色) シルト 40%	
064	SK	小穴	09	1D19s	43.2	33.9	10.8	楕円形	浅い U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	10YR6/6(明黄褐色) シルト 30%	
065	SK	小穴	09	1D19s ~ 1D19s	52.5	41.0	13.1	楕円形	浅い U字形	10YR5/2 (灰黄褐色)	シルト	7.5YR5/6(明黄褐色) シルト 20%、 小礫含む	
066	SK	小穴	09	1D19s	22.2	16.4	20.5	楕円形	U字形	2.5Y5/3(黄褐色)	シルト	山茶樹片出土、 10YR6/6(明黄褐色) シルト 30%	
067	SK	小穴	09	1D18s	15.5	15.1	27.0	円形	U字形	2.5Y4/3 (オリーブ褐色)	シルト	土人形片出土、小礫少量	近代
068												欠番	
069	SK	小穴	09	1D18s	45.4	45.2	19.5	円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色) 色) と 10YR6/6 (明黄褐色)	シルト	直径 5 cm 以下の円礫 2%	
070	SK	小穴	09	1D18s	49.5	48.0	29.6	不整 楕円形	U字形	上層: 10YR4/2 (灰黄褐色) 下層: 10YR6/6 (明黄褐色)	上層・下層: シルト	山茶樹片・土製品出土、 直径 4 cm 以下の円礫 2%	近代
071	SK	小穴	09	1D18s	25.6	22.0	7.2	円形	浅い U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト		
072	SK	小穴	10	1D16s	38.7	35.5	28.8	楕円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	北側は溝並み外へ延びる、 平場造成跡との切り合い不明	
073	SK	小穴	06	1D20s	52.8	12.0	13.0	楕円形	皿形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	SK075 を切る	
074	SK	小穴	06	1D20s	47.1	45.5	9.5	円形	有段 U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	山茶樹片出土、SK075 を切る	
075	S X	斜面 埋積 層(灰 層?)	06	1D19s ~ 1D20s	417.4	71.3	60.6	不整形	不整形	10YR6/6 (明黄褐色)	シルト	山茶樹片を含む、硬片を少量含む、 SK072・SK073 に切られる	
076	SK	小穴	07	1D17r	26.5	25.8	17.8	円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	小礫少量	
077	SK	小穴	07	1D17r	49.1	44.1	49.5	円形	有段 U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	山茶樹片出土、小礫少量、 2.5Y4/2(暗灰黄褐色) シルト少量、 直径 6 cm 以下の礫を少量含む、 SK092 を切る	
078	SK	土坑	05	2D1s	124.0	残存 71.0	21.5	隅丸 正方形	皿形	10YR6/4 (にぶい黄褐色)	シルト・ 細粒砂	SK092 を切る	
079	SK	小穴	05	2D2s	53.4	13.7	8.9	不整 溝状 U字形	浅い U字形	10YR5/4 (にぶい黄褐色)	細粒砂	直径 7cm 以下の礫 7%、 2.5Y5/3(黄褐色) シルト 3%	
080	SK	小穴	05	2D2s	44.1	32.0	19.5	不整 楕円形	U字形	10YR5/4 (にぶい黄褐色)	細粒砂	直径 6cm 以下の礫 10%、 2.5Y5/3(黄褐色) シルト 3%	
081	SK	小穴	07	1D17r	19.0	15.0	6.5	円形	U字形	2.5Y5/3(黄褐色)	シルト	2.5Y6/4(にぶい黄褐色) シルト粒 2%、 5YR5/6(明黄褐色) シルト微量	
082	SK	小穴	07	1D17r	16.5	16.2	7.7	円形	U字形	2.5Y5/3(黄褐色)	シルト	山茶樹片出土、小礫微量、5YR5/6 (明黄褐色) シルトブロックを含む	
083	SK	小穴	07	1D17r	17.1	16.2	4.8	円形	浅い U字形	2.5Y5/3(黄褐色)	シルト	10YR6/6 (明黄褐色) シルト 20%	
084	SK	小穴	07	1D17r	27.0	24.5	3.6	円形	皿形	2.5Y5/3(黄褐色)	シルト	直径 5 cm 以下の円礫少量、 10YR6/6(明黄褐色) シルト 20%	
085	SK	小穴	09	1D20s	22.0	15.8	45.0	楕円形	U字形	10YR6/6 (明黄褐色)	シルト	10YR5/3 (にぶい黄褐色) シルト 20%、 白磁片を含む	近代
086	SK	土坑	09	1D19s	44.4	28.0	44.0	楕円形	不整 U字形	10YR5/3 (にぶい黄褐色)	シルト	10YR4/2 (灰黄褐色) シルト 5%、 小礫少量	
087	SK	小穴	12	1D19s	21.8	20.4	16.0	円形	皿形	2.5Y5/3(黄褐色)	粘土質 シルト	土師器片・瓦片・金属器出土、 小礫少量	近代
088	SK	土坑	12	1D19s ~ 1E19s	残存 94.5	残存 42.5	37.0	楕円形	U字形	10YR5/3 (にぶい黄褐色)	シルト	平場造成跡に切られる、 10YR6/6 (明黄褐色) シルト 20%	

通積 No.	略号	種別	年端	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	覆土色調	覆土土性	混入物・備考	時期
089	SK	溝状遺構	12	1D19r ~ 1E20a	257.0	31.0	8.3	溝状	U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	ゼニール片出土、 底面未調整・凹凸あり	近代
090	SK	溝状遺構	12	1D20r	97.5	33.0	17.4	溝状	U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	底面未調整・凹凸あり	近代
091	SK	小穴	12	1E20a	34.0	27.3	38.5	楕円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	10YR3/2(黒褐色)シルト少量、 10YR5/4(にぶい・黄褐色)シルト10%	
092	SK	小穴	06	2D1s	40.9	32.2	25.2	楕円形	U字形	10YR6/6 (明黄褐色)	粘土質 シルト	10YR5/4(にぶい・黄褐色)粘土質シルトが混入している。SK078に切りられる	
093	SK	小穴	08	2D1s・2D1t ~ 2D2s・2D2t	63.9	40.4	12.3	不整 三角形	浅い U字形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)シルト20%、 小礫微量	
094	SK	平堀 造成 溝	11	2D2t ~ 1E19a	残存 431.5	残存 115.0	46.9	不整 半月形	不整形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	粘土質 シルト	山茶碗片出土、10YR5/2(灰黄褐色) 粘土質シルト30%、10YR6/6 (明黄褐色)シルト5%、総礫量多い	
095	SK	小穴	12	1D19r ~ 1E19a	95.0	残存 70.0	13.0	楕円形	浅い U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	粘土質 シルト	10YR4/2(灰黄褐色)シルト5%、 整地層に切りられる	
096	SK	小穴	05	2D2s	20.2	残存 19.1	24.3	円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%、 SK097を切る	
097	SK	小穴	05	2D2s	54.2	残存 35.5	52.5	不整 楕円形	有段 V字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%、 SK096に切りられる	
098	SK	小穴	05	2D2s	21.1	20.5	7.5	円形	U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR5/2(灰黄褐色) 粘土質シルト10%	
099	SK	小穴	05	2D2s	55.3	27.0	43.5	楕円形	有段 V字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	灰色粘土微量、 10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂15%	
100	SK	土坑	08	2D1t ~ 2D2t	211.5	167.8	47.5	楕円形	不整 皿形	10YR6/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)シルト15%、 粘性あり、樹木腐	
101	SD	溝	03・ 05	2DQr・2D3q・2D3r	残存最大 751.0	残存最大 幅232.5	46.0(西 壁付込)	溝状 V字 形	上層：10YR6/6(明黄褐色)、中層：2.5Y6/3(にぶい・黄色)、下層：7.5YR6/6(にぶい・褐色)	上層：赤 中層： 下層： 細粒砂	山茶碗片出土、SD102を切る、 下層から近代の陶器片出土	近代	
102	SD	溝	03	2D2q	残存 282.0	残存最大 幅232.5	20.2	溝状	U字形	上層：10YR4/2(灰黄褐色)、中層：10YR6/4(にぶい・黄褐色)、下層：10YR6/6(明黄褐色)	上層・中 層・下層： シルト	SD101に切りられる	
103	SK	小穴	10	1D16r・1D16s ~ 1D17r・1D17s	37.8	37.5	18.0	不整 丸方形	浅い U字形	10YR3/2(黒褐色)	シルト	10YR6/4(にぶい・黄褐色) シルト30%、小礫少量	
104	SK	小穴	06	1D18r	26.4	19.5	15.9	楕円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	炭化物粒微量	
105	SK	小穴	06	1D18r	34.0	27.5	10.0	不整 円形	浅い U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト		
106	SK	小穴	06	1D19r	残存 70.5	残存 49.7	35.0	楕円形	U字形	10YR5/4 (にぶい・黄褐色)	シルト	10YR5/4(にぶい・黄褐色)シルト10%	
107	SK	小穴	06	1D19r・1D19s ~ 1D20r・1D20s	50.3	42.5	21.0	楕円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	小礫少量	
108	SK	小穴	09	1D18s	25.7	20.2	31.0	楕円形	有段 U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	直径3cm以下の小礫微量	
109	SK	小穴	09	1D19s	51.0	45.5	19.0	楕円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	10YR5/4(にぶい・黄褐色)シルト20%、直径6cm以下の小礫少量	
110	SK	小穴	09	1D20r	35.4	27.6	14.0	円形	U字形	10YR4/2 (灰黄褐色)	シルト	小礫少量、攪乱状に抽出	
111	SK	小穴	04	1D19q	残存 50.6	残存 48.5	24.0	楕円形	U字形	① 10YR5/2(灰黄褐色)、② 10YR4/2(灰黄褐色)、③ 10YR4/2(灰黄褐色)、④ 10YR6/4(にぶい・黄褐色)	①~④ シルト	山茶碗片を微量含む、 焼酎片を微量含む、 円礫を少量含む、SK001を切る、 西側は溝掘区外に広がる	

第3節 遺物

今回の調査で出土した遺物の大半は中世の窯業生産に関連したものである。それらは焼成失敗品として廃棄された製品、焼成時に使用された窯道具、床や壁など窯体の一部に分けられる。さらに製品は施釉の有無により、無釉陶器（山茶碗・小碗・小皿・陶丸）と施釉陶器（古瀬戸）に分けられる。土師質の銅など工人が使用目的で持ち込んだ道具類は出土していない。

なお、これ以外には近現代の陶磁器などが出土している。

遺物の整理にあたり遺物の大多数を占める山茶碗の中に、重ね焼きでは自然釉がかからない底部外面に釉がかかるものや、胎土が黄白色をした焼成不良品が目立った。底部外面に自然釉がかかるものは蓋としての二次利用が、胎土が黄白色をしたものは同時焼成の可能性が考えられるため、遺物の分類は焼成具合に重点を置いて実施した。

表12 出土遺物個体数表

器種	山茶碗	小碗	小皿	陶丸	四耳壺	瓶子	水注	壺瓶類	卸皿	灰釉皿	合計
破片数	16131	1	117	28	128	181	10	113	54	8	16771
重量 (g)	214505	24	2297	148	6076	4263	226	3280	806	212	231837
底部 1/2 以上	1047	0	40	27	1	3	0	0	3	1	1122

重量に溶着資料は含まず、陶丸は1/2残存数でカウントした。また器種を明確にできない四耳壺・瓶子・水注は壺瓶類とした。

(1) 無釉陶器

釉薬をかけないで焼成した製品としては、山茶碗・小碗・小皿・陶丸がある。

焼成具合による分類の基準は次の通りである。

- A 焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。自然釉が厚くかかる。
- B 焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。自然釉が薄くかかるものがある。
- C 焼成具合はやや不良で、胎土は黄白色をしている。
- D 焼成具合は不良で、胎土は黄白色または白色をしている。

a 山茶碗 (図19～25、30 1～195、296～298 写真図版7、9、14 305～310)

総破片数16131点、総重量214505g、底部1/2以上残存数1047点を数える。図化した195点の法量は、器高4.1～6.8cm、口径11.2～14.8cm、底径4.4～7.1cmを測りばらつきが大きい。

胎土は砂や小石を含み粗く、焼成が良好なものの表面には長石粒の吹き出しがみられる。体部は直線的に立ち上がり、体部外面から口縁部にかけてわずかに外反するものが多い。口縁部は四角く仕上げたものと口縁頂部が尖り断面が三角形をしているものがある。底部と体部内面との境は角張り、底部内面中央に指圧痕がみられる。底部外面には糸切り痕がみられるが、高台を装着した時の指ナデで消され、高台の剥離した部分を除き不鮮明である。底部外面には他に板目状圧痕が残るものが多い。

底部が完存し、溶着せず高台の様子を観察することができる357点の高台の残存状況を示したのが表14である。高台が完存するものは11点(3.1%)にすぎず、高台が一部残存するものが255点(71.4%)と多数を占める。無高台のもの91点のうち、54点(15.1%)に高台の剥離痕がみられ、剥離痕がなく無高台で焼成したものは37点(10.4%)である。高台はほぼ正円に装着されているが、装着位置が縁辺よりやや内側のものが多い。端部は羽殻痕が残り、つぶれて丸くなっている。高台を装着した時の指ナデは高台の内面のみで外面に施したものはわずかである。SX002から剥離した高台片が651片出土しており、高台の輪ドチ化が進んでいたことがわかる。

山茶碗が重なった状態で出土したものがあり、重ねて焼成したことがわかる。確認できたのは13段が最高である(308)。193は体部外面に自然軸がかかり、体部内面に剥離痕がみられることから、陶丸焼成時に蓋として利用したと思われる。194は底部内面に円形に指ナデ痕が残り、195は無高台で底部が突出するものであるが、それぞれ1点出土したのみである。

表13 山茶碗個体数表

分類	破片数 (%)	重量 g (%)	底部1/2以上残存数 (%)
A	3278(20.3)	67236(31.3)	345(33.0)
B	4532(28.1)	67685(31.6)	341(32.6)
C	5870(36.4)	60971(28.4)	260(24.8)
D	2451(15.2)	18613(8.7)	101(9.6)
合計	16131(100.0)	214505(100.0)	1047(100.0)

表14 山茶碗高台残存別個体数表

分類	完存	3/4以上	3/4～1/4	1/4以下	痕跡のみ	痕跡なし	不明	合計
A	5	19	45	25	12	16	67	189
B	6	21	50	30	18	9	1	135
C	0	7	24	26	16	7	0	80
D	0	0	2	6	8	5	0	21
合計	11	47	121	87	54	37	68	425

b 小碗(図25 196)

出土したのは1点のみである。山茶碗と同様の胎土と器形をしているが、法量が器高4.2cm、口径9.8cm、底径4.1cmと山茶碗より小振りなため別器種とした。体部の器壁は薄く、直線的に立ち上がる。口縁部は四角く仕上げている。底部外面には糸切り痕と高台剥離痕がみられる。

c 小皿(図25、30 197～234、295 写真図版8)

山茶碗と同様の胎土で、山茶碗とセットになる器種である。総破片数117点、総重量2297g、底部1/2以上残存数40点を数える。図化できた40点の法量は、器高1.4～2.1cm、口径7.2～8.4cm、底径4.2～6.1cmを測る。



上 高台が一部剥離した山茶碗(56)



右 SX002から出土した高台片(一部)(313)

底部外面には糸切り痕がみられ、加えて板目状圧痕が残るものが多い。底部内面中央には指ナデがみられるが、なでた程度でほとんど凹んでいないものもある。

口縁部や体部外面の形状等から4つに分類が可能である。

I 体部外面から口縁部にかけてわずかに外反する。口縁部は丸く仕上げているが厚手である。器高は低く、底径は広いものが多い。焼成具合Cの割合が高い。

II 体部外面から口縁部にかけてわずかに外反する。口縁部は四角く仕上げ薄手である。

Iと比べ器高は高く、底径は狭いものが多い。出土量が一番多い。

III 体部外面から口縁部にかけてわずかに外反する。口縁頂部が突り断面が三角形をしていて薄手である。器高、底径ともIIと同様である。焼成具合Bの割合が高い。

IV 体部外面から口縁部にかけて外反せず丸く仕上げ上げる。口縁部は四角く仕上げ薄手である。器高、底径ともIIと同様である。焼成具合Aの割合が高い。

小皿2枚が溶着したもの(295)が出土しているが、山茶碗や焼台と溶着したものは確認できなかった。山茶碗と比べ出土量が少ないこと、小皿焼成用の焼台が出土していないことから、小皿は重ねた山茶碗の最上段にさらに重ねて焼成したものと思われる。232は口縁の約4分の1が欠けており、長石粒の吹き出しなどを取り除く道具として使用したものと思われる。

表15 小皿個体数表(1)

分類	破片数 (%)	重量 g (%)	底部 1/2 以上残存数 (%)
A	35(29.9)	724(31.5)	14(35.0)
B	44(37.6)	912(39.7)	15(37.5)
C	33(28.2)	609(26.5)	10(25.0)
D	5(4.3)	52(2.3)	1(2.5)
合計	117(100.0)	2297(100.0)	40(100.0)

表16 小皿個体数表(2)

分類	個数 (%)
I	9(22.5)
II	20(50.0)
III	8(20.0)
IV	3(7.5)
合計	40(100.0)

d 陶丸 (図 25、30 235～244、299～304 写真図版 9)

山茶碗と同様の胎土である。手づくねで成形しているため不整形な球状をしている。総破片数28点、総重量150g(溶着資料を除く)、1/2以上残存数27点である。大きさは長径2.5cm前後の大きと長径2.2cm前後の小に分けることができる(表18)。小の多くは古瀬戸四耳壺片に溶着した状態で出土している(299～303)。焼成具合は良好のものがほとんどであるが、236・238・240のように不良のものもある。陶丸が溶着したり、陶丸の剥離痕が残る山茶碗片や古瀬戸片が出土しており、これらの破片を皿や蓋にして焼成している。焼成に古瀬戸片を利用しているが、山茶碗と同時に焼成されたと思われる。

表17 陶丸個体数表

分類	破片数 (%)	重量 g (%)	1/2 以上残存数 (%)
A	16(57.1)	24 ※	16(59.3)
B	9(32.1)	92	8(29.6)
C	1(3.6)	12	1(3.7)
D	2(7.1)	22	2(7.4)
合計	28(99.9)	150	27(100.0)

※溶着資料の重量は含まず

表18 陶丸長径別個体数表

長径 cm	個数
2	1
2.1	4
2.2	6
2.3	2
2.4	5
2.5	4
2.6	3
不明	2
合計	27

(2) 施釉陶器

釉薬を施して焼成した製品で、古瀬戸とよばれるものである。釉はすべて灰釉で刷毛塗りしている。四耳壺、瓶子、水注、鉦皿、灰釉皿が出土した。

焼成具合による分類の基準は次の通りである。

- A 焼成具合は焼き過ぎで、胎土は灰白色をしている。溶着がみられる。
- B 焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。灰釉がかかる。
- C 焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。釉が剥離している。
- D 焼成具合はやや不良で、胎土は赤褐色をしている。釉を塗った痕跡がみられる。
- E 焼成具合はやや不良で、胎土は黄白色をしている。釉を塗った痕跡がみられる。
- F 焼成具合はやや不良で、胎土は黄白色をしている。釉を塗った痕跡がみられない。

なお、四耳壺・瓶子・水注の区別ができない破片が多く、器種ごとの正確な破片数等を出すことはできなかった。また、施釉陶器の出土数は無釉陶器と比べて極端に少ないため、可能な限り図化した。

a 四耳壺 (図 26、30 245～258、299・302 写真図版 9、11)

総破片数 128 点、総重量 6076g (陶丸付着の 6 点を除く)、底部 1/2 以上残存数 1 点、図化した 16 点のうち全体像が分かるのは 1 点のみである。

胎土は小石をわずかに含むものもあるが全体的には緻密である。外面全体に灰釉が薄く刷毛塗りされ、釉の流れた痕跡が外面全体と内面一部にみられる。焼け歪みや破面に釉の付着した破片が多くきれいに接合できなかった。これは内面または外面に陶丸が付着するもの(299、302)があることから、陶丸焼成時に破片を容器として利用したためだと考える。粘土組織積層成形で、内面に横ナデや指圧痕がみられる。特に指圧痕は頸部と肩部の接合部分に顕著にみられる。また胴部内面にヘラによる描き上げ痕がみられるもの(247)がある。底部外面には高台が付き、胴部外面下方には回転ヘラ削り調整がみられる。

頸部の形状は下方から口縁部に向かって外傾する。口縁部は玉縁状をしており、折り曲げた先が内側に閉じるもの(246、250)と外側に開くものに分かれる。外側に開くものは 1 回だけ折り曲げたもの(245、249、251)とさらに内側に折り曲げたもの(248、252)に分かれる。肩部には耳が 4 ケ所付いている。耳は 3～5 本の小突線をした紐状粘土を貼付けており、小突線は貼付け前に施している。耳をはさんで上下に柳描きによる平行沈線が巡る(245、254～258)が、平行沈線がないもの(246、247)も存在する。沈線の本数は 4・5 本のものが多い。上下で本数が違っているものが多く規則性はあまりない。

b 瓶子 (図 26～28 259～271 写真図版 10、14)

総破片数 181 点、総重量 4263g (焼台が付着した 89 点を除く)、底部 1/2 以上残存数 3 点、頸部が残るのは 1 点のみ(259)で口縁部が出土しなかったため全体像が分かるものはない。胴部下方がくびれる縮腰形(260～266)と直線的な梅瓶形(267～270)の 2 種類に分類できる。すべて平底で、肩部から胴部上方にかけて平行沈線が 2 条巡る。胎土、釉調、成形技法などは四耳壺と同様である。肩部に山茶碗の口縁部が付着したもの(261)や、底部外面に青灰色をした焼台が付着したもの(260、261、263、268)が出土しており、山茶碗焼成時の二次利用が考えられる。

c 水注 (図 28 277～281 写真図版 11)

総破片数 10 点、総重量 226g、底部 1/2 以上残存数 0 点、口縁部 1 点、注口部 2 点、把手部 3 点を数える。胎土、釉調、成形技法などは四耳壺と同様である。口縁部の出土は 277 のみであるが、

頸部から口縁部に向かって外傾する。278 は注口部上方に4本の平行沈線が1条巡る。注口部と胴部との接合部分に指圧痕がみられ、穴は外から内に向かって開けられていることが確認できる。把手の外面には小突線が数本等間隔に配され、内面に胴部との接合痕がみられるもの(281)もある。

d 卸皿(図28 272～275 写真図版12)

総破片数54点、総重量806g、底部1/2以上残存数3点を数える。図化した4点の法量は、器高3.5～3.8cm、口径13.1～14.6cm、底径6.6～8.1cmを測る。胎土は小石をわずかに含むものもあるが全体的に緻密である。底部外面を除き灰釉が薄く刷毛塗りされている。底部外面はわずかに突出し、糸切り痕がみられる。体部内面は底部内面との境が角張り直線的に開く。底部内面から体部内面下方にかけて卸目が見られるが、団子トチの付着した痕跡がみられるもの(272、273、275)もあり、焼成は団子トチを使用した重ね焼きである。体部外面から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は四角く仕上げ頂部の中央が凹むもの(272、274、275)と、内側に若干折れ頂部の中央が凹むもの(273)と、丸く仕上げ頂部の中央が凹まないもの3つに分かれる。さらに274、275には口縁端部を指でつまんで作られた片口がみられる。

e 灰釉皿(図28 276 写真図版12)

1点のみ出土した。底部内面に卸目が見られず、中央に指ナデ痕がみられる以外は、卸皿と同様である。口縁部は内側に若干折れ頂部の中央が凹む。団子トチの付着した痕跡がみられず、内面に降灰による付着物がみられることから、卸皿焼成時に蓋の役割も兼ねて最上段に置かれたと思われる。

(3) 窯道具

窯道具は製品を窯内で焼成する際に使用する道具であり、馬爪焼台、分焰棒、団子トチ、蓋が出土している。

a 馬爪焼台(図29、30 283～293、写真図版13)

窯の床は傾斜しているため製品を整然と並べ焼成するには困難が伴う。そこで馬爪焼台(以下焼台と略す)と呼ばれる粘土塊を焼成室の床に規則正しく貼り付け、その上に製品を乗せて焼成した。

焼台は色調から青灰色と赤褐色の2種類に分けられる。色の相違は焼成方法の相違によるものといわれ、青灰色のものは還元炎焼成によるもので山茶碗焼成時に、赤褐色のものは酸化炎焼成によるもので古瀬戸焼成時に使用されたと考えられている。

焼台は窯道具であり製品ではない、窯跡から大量に出土する、非常に脆く完形で出土することが少ないなどの理由から、従来は十分に調査されることなく現地処分されることが多かった。しかし近年、焼台の持つさまざまな情報を注目するようになり、数量や重量を計測した後に廃棄されることが多くなってきた。

本遺跡は調査に入るまでは山茶碗専焼窯と考えられていたが、調査に入るため樹木を伐採したところ古瀬戸が表採され、古瀬戸併焼窯の可能性が高くなった。そこで山茶碗焼成時に使用された青灰色焼台は1/2以上残存するものを、古瀬戸焼成時に使用された赤褐色焼台はすべて持ち帰ることとした。しかし、SX001・002・019から大量の青灰色焼台が出土したため、これらの遺構から出土した焼台は完形ないし完形に近いものだけを持ち帰ることとし、その代わり現地ですべての焼台の数量と重量を計測した。

青灰色焼台は1/2以上残存数260点を数え、そのうちの53.8%にあたる140点がSX001・002からの出土である。大きさまや上面に見られる遺物痕などから、ほとんどが山茶碗焼成用の焼台である。小皿焼成用の小型の焼台は出土しておらず、小皿は出土量から考えても、山茶碗の上に重ねて焼成したと思われる。他には、瓶子が溶着した青灰色焼台（写真図版14・260）が出土しているが、肩部に山茶碗の口縁が溶着した瓶子（写真図版10・261）が出土しており、山茶碗との同時焼成ではなく二次利用である。

赤褐色焼台は1/2以上残存するものは8点のみで、古瀬戸の出土量から考えても、焼成回数は1回程度と思われる。赤褐色焼台はさらに、糸切り痕を持つ平底の遺物痕が残るもの（284）、敷かれた砂利やその痕跡とその上に平底の遺物痕が残るもの（283）、平底の小型製品の遺物痕が残るもの（285）に分かれる。おそらく284は卸皿を、283は瓶子や水注などの平底の大型製品を乗せたものであろう。

表19 青灰色焼台個体数表

1/2以上 残存数	硬さ				角度°				
	非硬	硬	軟	非軟	10~	20~	30~	40~	不明
145	10	84	39	12	24	72	29	6	14

遺物痕半径 cm					焼台直径 cm						
~2.7	2.8~3.2	3.3~3.7	不明	不明	10~	11~	12~	13~	14~	15~	不明
2	100	28	15	1	22	61	34	14	1	12	

SX001、002、019の一部を除く

硬さ分類の基準

非硬：表面は遺物痕を除き灰の溶着が激しく、遺物が付着する場合がある（山茶碗高台は別）、中心まで硬く焼けている

硬：表面は遺物痕を除き灰の溶着があり硬く焼けているが、中心は硬く焼けていない。

軟：表面に灰の溶着がなく、全体的に「硬」より焼きが甘い。

非軟：全体的に焼きが甘く、生焼け状態である。

表20 主要遺構出土青灰色焼台個体数表

遺構番号	平場	グリッド	破片数	重量 kg	完形数	1/2以上残存数	1/4以上残存数	備考
SX001	4	1D19q	2205	389.2	5	112	312	
SX002	4	1D19q20q	592	113.5	7	28	93	
SX019	6	1D19r	173	20	0	6	15	赤褐色焼台片5 分焙棒片5

数量、重量とも発掘現場での計測値であるため、持ち帰り後の計測結果とは若干の相違がある。

表21 赤褐色焼台個体数表

総破片数	硬さ				角度°				
	非硬	硬	軟	非軟	10~	20~	30~	40~	不明
94	11	81	2	0	9	6	4	1	74

遺物痕半径 cm					焼台直径 cm						
~3.4	3.5~4~	4.5~	不明	不明	~10	11~	12~	13~	14~	不明	
1	11	4	7	71	1	2	1	0	2	88	

b 分煇棒 (図 30 294 写真図版 14)

焼成時に炎の調整のため分煇棒付近に置かれたと考えられているものである。煇台と同質の粘土を使用し先端が緩やかに尖った円筒形をしたもの(294)と、溶着した煇台や山茶碗の重なりを利用したもの(308)に分けられる。ともに自然釉が厚くかかる。294は胎土が赤褐色をしており古瀬戸焼成時に、308は繋ぎに使用している粘土の胎土が青灰色をしており、山茶碗焼成時に使用したものである。

c 団子トチ (図 29 282 写真図版 12)

鉦皿を重ね焼きするために使用したものである。1点のみ出土した。直径約2.3cm、高さ約0.9cmを測る。手づくねにより成形され上下が押圧により平らになっている。上面には鉦皿底部の糸切り痕が明瞭に残る。下面には直径1mm程の砂利が多数埋め込まれているが、これらは軸着防止のために付けられたものと思われる。鉦皿の鉦目に残る剥離痕から鉦皿と鉦皿の間に団子トチを4個置いて使用したことがわかる。

なお確実な団子トチの使用は古瀬戸前IV期からと考えられており、今回出土した団子トチは初期の使用例といえる。

d 蓋

出土した無釉陶器を焼成具合からA～Dの4つに分類したが、Aに分類した山茶碗の中には外面全体に自然釉がかかるものがある。これらは重ね焼きした山茶碗に自然釉がかかるのを防止するため最上段に伏せて置かれたものとも考えられるが、なかには、内面全体に自然釉がかかるものや、内外面ともに自然釉がかかるものもある。また小皿の中にも内面全体に自然釉がかかるものがあり、重ね焼きした山茶碗や小皿の最上段すべてに蓋をしたわけではない。外面に自然釉が掛かる山茶碗の中には内面に陶丸の剥離痕が見られるものがあることから、陶丸の焼成時に蓋として山茶碗を利用していることは確実である。そして内面全体に自然釉が掛かるものは重ね焼きの最上段に置かれたもの、内外面ともに自然釉が掛かるものは重ね焼きの最上段に置かれたものを蓋として再利用したものである。

e その他

山茶碗や古瀬戸の破片の中には陶丸が溶着したものや陶丸の剥離痕が残るものがある。これらは陶丸焼成時に皿や蓋として利用したものであり、これらも広義の窯道具といえよう。

(4) 窯壁

窯跡の調査では、窯体の一部(天井・側壁・床など)が破片となって出土する。通常これらは現地でも処分し持ち帰ることはない。しかし、本調査では調査区内から窯体が見つからない可能性が考えられたので(実際、窯体は検出されなかった)、窯体に関する少しでも多くの情報を得るため出土した窯壁はすべて持ち帰ることとした。

窯壁の出土破片数は145点でその重量は14460gを量る。なかでも、SX001からは破片数27点、重量5825gの窯壁が出土しており、重量で全出土量の40%を占めている。

出土した窯壁はその特徴から、床、天井または側壁、それらの裏側に続く被熱部分に分けられる。

a 床 (写真図版 14 311)

311 はグリッド 1D19r の表土層から出土した。表面には自然釉が厚くかかり硬く焼け締まる。多少の凹凸はあるが全体的に滑らかである。釉は灰白色をし、断面に気泡痕が多数見られることから、焼成時にかなりの高温が出た場所のものであろう。裏面には砂利や青灰色をした焼台の細片が多数付着しているが剥離しやすい。また、断面を観察すると硬化面を 3 面確認することができ、この窯体で 3 回以上の焼成が行われたことがわかる。

SX001 下層から出土した窯壁の中には、裏面に山茶碗片が付着したもので硬化面が確実に 2 面あるもの（3 回目不明瞭）が存在することから、焼台集積遺構である SX001 は最初の焼成時に形成されたものではないことがわかる。

b 天井または側壁

グリッド 1D19r の平場造成層下焼台層 (SX002 か) から出土した。

砂利混じりの粘土が青灰色に硬く焼け締まり、表面には明青灰色の自然釉が薄くかかり凹凸が激しい。床との違いは明確だが、天井と側壁の区別は判断としない。色調から山茶碗焼成時のものであろう。なお、天井または側壁の出土量は床と比べると少ない。

c 裏面に続く被熱部分 (写真図版 14 312)

SX001 下層から出土した被熱により変色した土塊である。窯体に近い方から、青灰色、明青灰色、橙色、赤褐色と変色している。青灰色部分は多少硬化しているが、それ以外の硬化はほとんどない。色調から山茶碗焼成時のものであろう。

表 2 2 主要遺構出土窯壁個体数表

遺構	平場	グリッド	破片数	重量 g
SX001	4	1D19q	27	5825
SX002	4	1D19q20q	17	600
SX019	6	1D19r	12	645



左 整理作業風景 (遺物接合)



右 整理作業風景 (遺物実測)

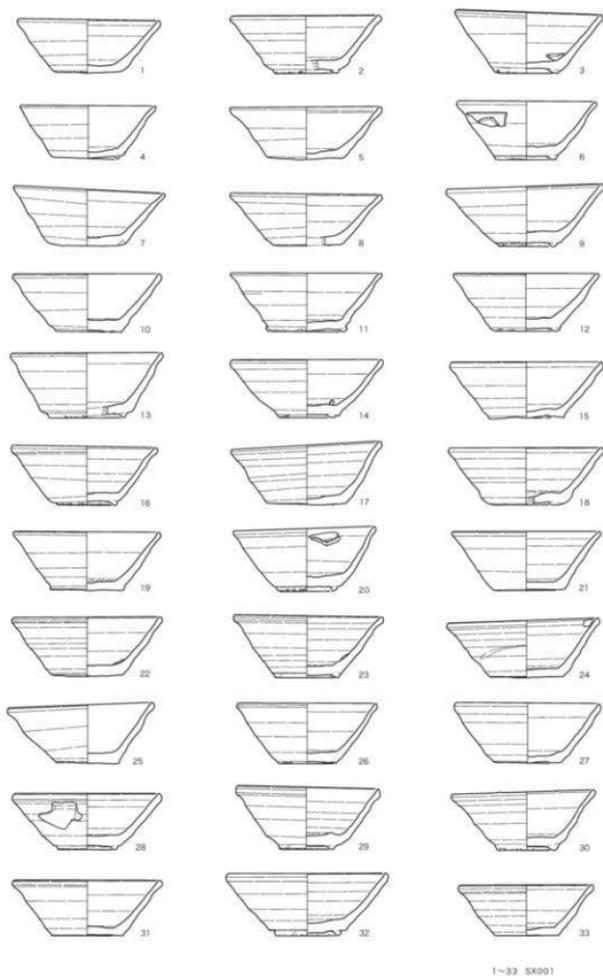


图 19 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)



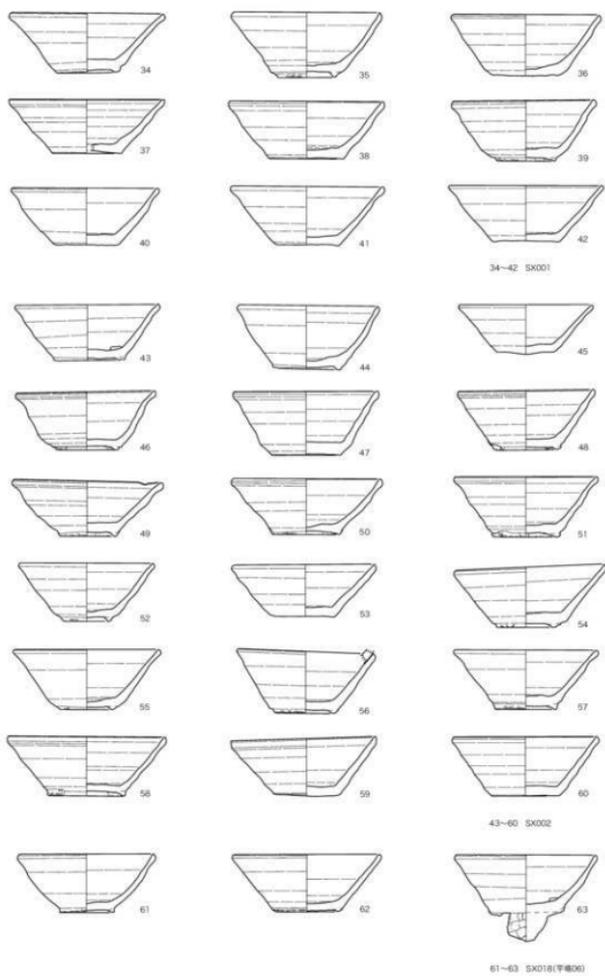


図20 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)



図21 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)



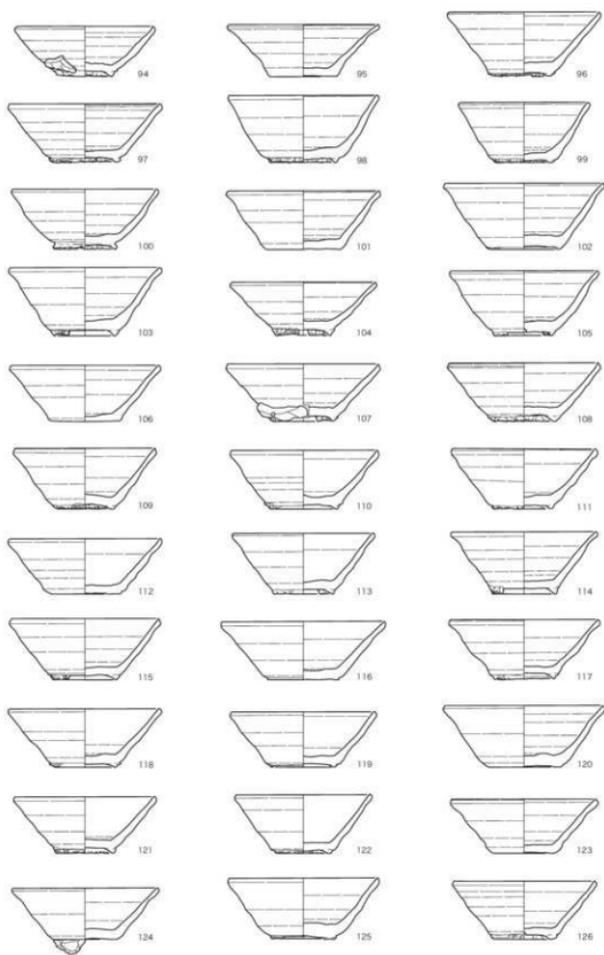


图22 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)

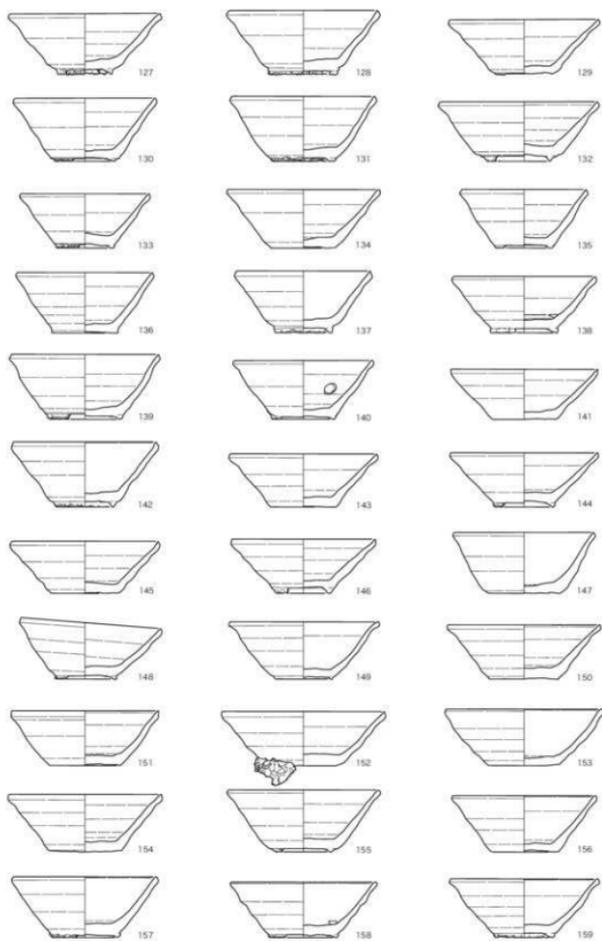


图23 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)

0 1.0cm

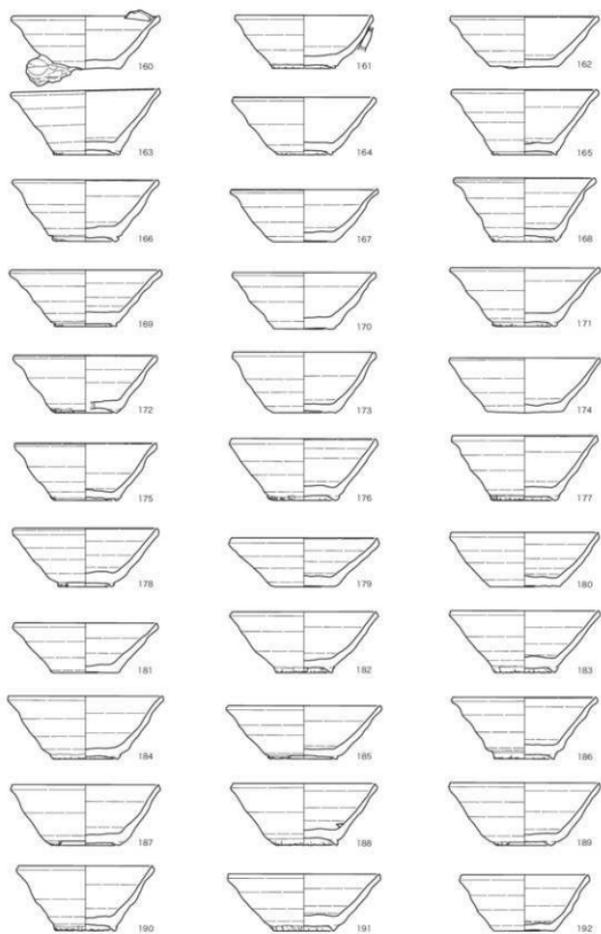


图24 出土遺物実測図(山茶碗)(S=1/4)



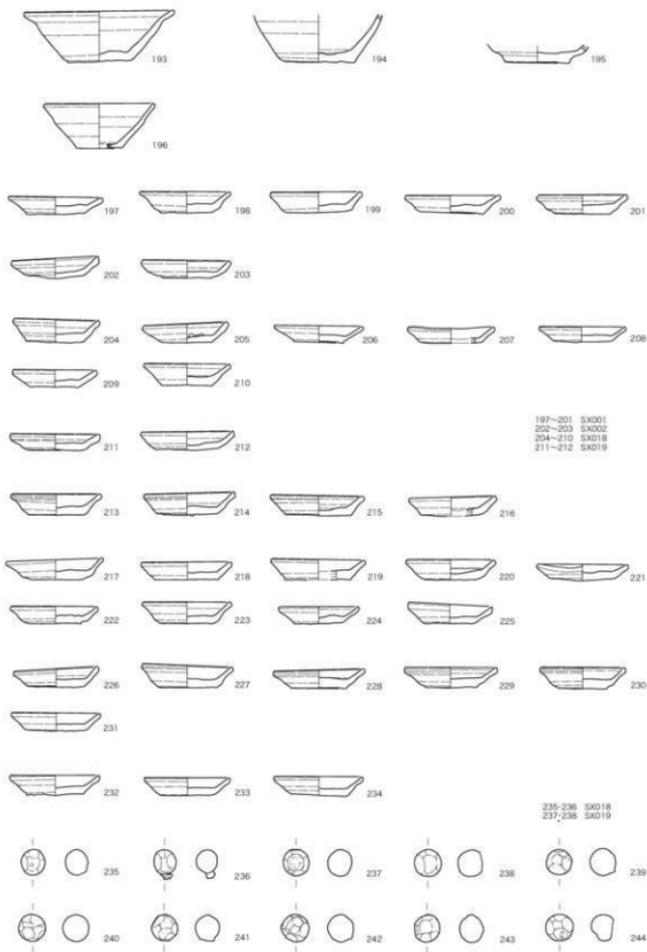


図25 出土遺物実測図(山茶碗・小碗・小皿・陶丸)(S=1/4)



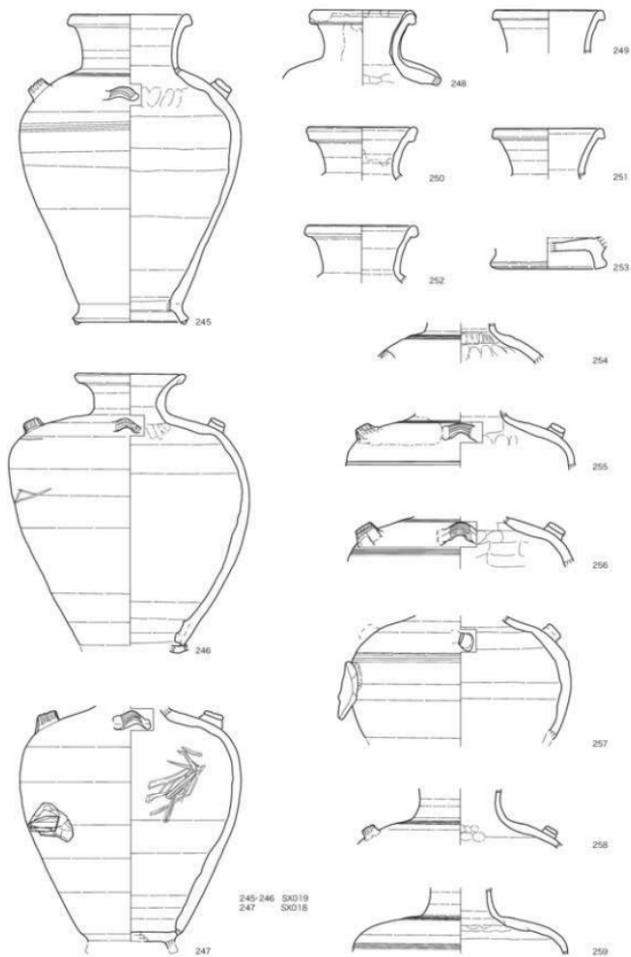
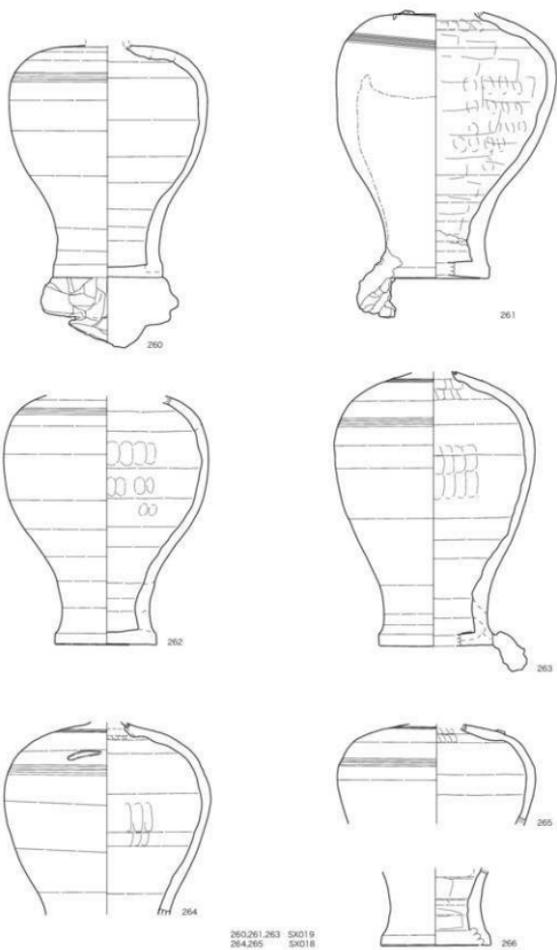


图26 出土遺物実測図(四耳壺・瓶子)(S=1/4)





260,261,263 SK019
264,265 SK018

図27 出土遺物実測図(瓶子)(S=1/4)



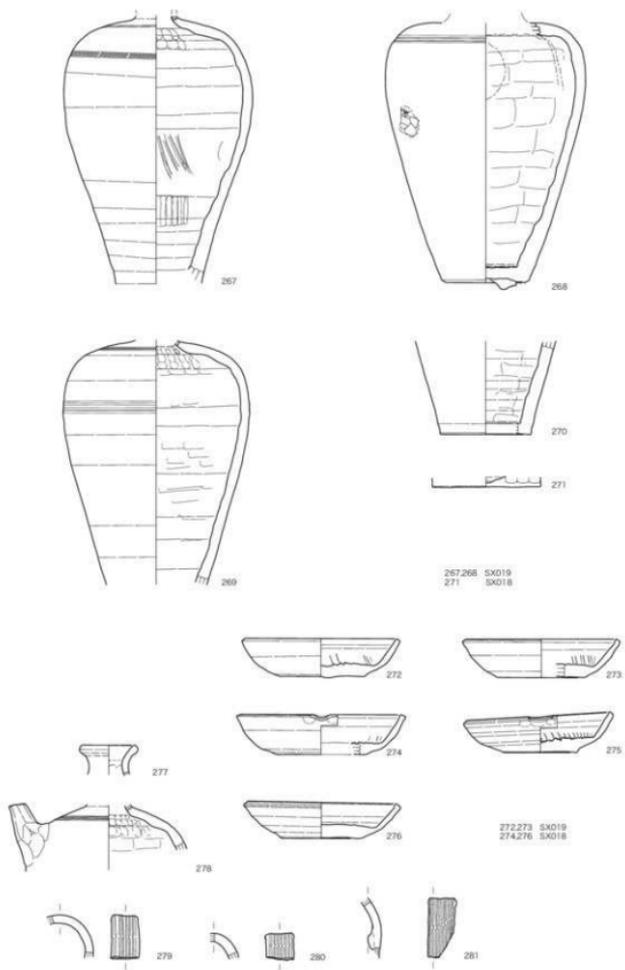


図28 出土遺物実測図(瓶子・卸皿・水注)(S=1/4)

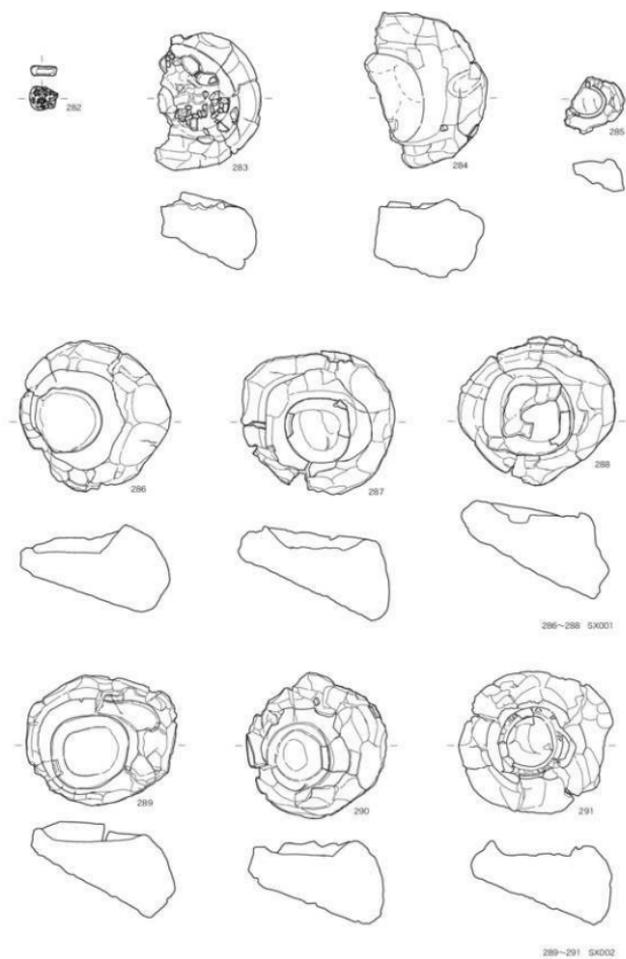


図29 出土遺物実測図(団子トチ・焼台)(S=1/4)



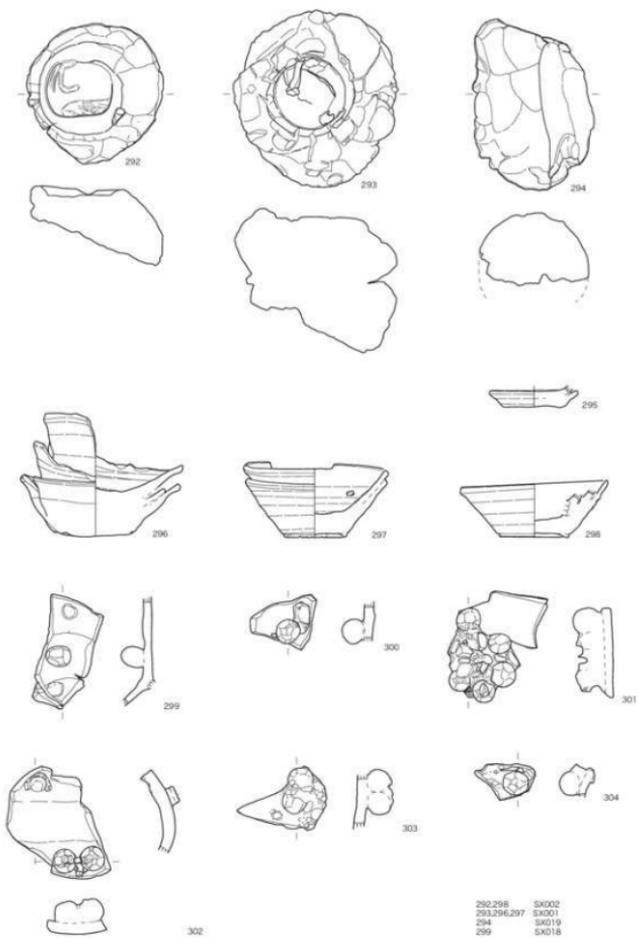


图30 出土遺物実測図(焼台・溶着)(S=1/4)



表23 遺物観察表

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)			口縁部残存 率 / 1 2	焼成	登録 番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
1	山茶碗		1D19q	SX001	5.1	12.7	6.2	6	A	E-1
2	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.2	5.6	4	A	E-2
3	山茶碗		1D19q	SX001	5.9	13.1	5.6	6	A	E-3
4	山茶碗		1D19q	SX001	4.9	12.2	6	4	A	E-4
5	山茶碗		1D19q	SX001	4.8	13.6	6.9	3	A	E-5
6	山茶碗		1D19q	SX001	5	12.4	5.8	4	A	E-6
7	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	13.6	6.6	5	A	E-7
8	山茶碗		1D19q	SX001	4.9	13.6	6.2	5	A	E-8
9	山茶碗		1D19q	SX001	5.8	14	5	3	A	E-9
10	山茶碗		1D19q	SX001	5.2	13.1	6	7	A	E-10
11	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.5	6.5	3	B	E-11
12	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13	5.6	3	B	E-12
13	山茶碗		1D19q	SX001	6	13.6	6.6	4	A	E-13
14	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.4	4.8	3	A	E-14
15	山茶碗		1D19q	SX001	5.2	13.6	6.9	3	B	E-15
16	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13	5.2	8	B	E-16
17	山茶碗		1D19q	SX001	5.9	13.5	7.1	7	B	E-17
18	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.8	6.8	4	B	E-18
19	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13	6.5	5	B	E-19
20	山茶碗		1D19q	SX001	5.8	12.8	4.4	4	A	E-20
21	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13.2	6.4	2	B	E-21
22	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13.3	6.6	6	B	E-22
23	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	13.4	5.7	1	B	E-23
24	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13.6	6.6	5	B	E-24
25	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13	5.8	2	B	E-25
26	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	12.5	5.2	5	B	E-26
27	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	12.9	6	4	B	E-27
28	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.2	5.2	5	B	E-28
29	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	12.8	4.8	5	B	E-29
30	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	12.8	5.2	4	B	E-30
31	山茶碗		1D19q	SX001	5.2	13.2	6.4	4	C	E-31
32	山茶碗		1D19q	SX001	5.8	14.2	5.6	3	C	E-32
33	山茶碗		1D19q	SX001	4.7	12	5.6	1	C	E-33
34	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	13.8	5.4	4	C	E-34
35	山茶碗		1D19q	SX001	6	13.2	5.2	4	C	E-35
36	山茶碗		1D19q	SX001	5.7	13.2	5.9	4	C	E-36
37	山茶碗		1D19q	SX001	5	14	6.2	2	C	E-37
38	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.9	6.8	1	C	E-38
39	山茶碗		1D19q	SX001	5.7	13.2	5.2	3	C	E-39
40	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.1	5.8	2	D	E-40
41	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.6	5.8	1	D	E-41
42	山茶碗		1D19q	SX001	5.1	13.6	5.8	2	D	E-42
43	山茶碗		1D19q	SX002	5.1	12.9	5.5	11	A	E-43
44	山茶碗		1D19q	SX002	5.9	12.6	6.3	6	A	E-44
45	山茶碗		1D19q	SX002	4.1	11.9	5.3	5	A	E-45
46	山茶碗		1D19q	SX002	5.5	12.4	5.4	3	A	E-46
47	山茶碗		1D19q	SX002	5.9	13	6.2	1	A	E-47
48	山茶碗		1D19q	SX002	4.5	12.2	5.4	1	A	E-48
49	山茶碗		1D20q	SX002	5	12.4	5	3	A	E-49
50	山茶碗		1D19q	SX002	5.2	13.3	6.1	7	B	E-50
51	山茶碗		1D19q	SX002	5.6	12.8	5.8	5	B	E-51
52	山茶碗		1D19q	SX002	5.4	12	4.5	2	B	E-52
53	山茶碗		1D19q	SX002	4.8	12.6	5.8	5	B	E-53
54	山茶碗		1D19q	SX002	5.5	13.6	5	7	B	E-54
55	山茶碗		1D19q	SX002	5.6	13	4.8	6	B	E-55

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)			口縁部残存 率 / 1 2	焼成	登録 番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
56	山茶碗		1D20q	SX002	5.8	12.3	5.5	12	B	E-56
57	山茶碗		1D20q	SX002	5.5	12.8	5.4	1	B	E-57
58	山茶碗		1D20q	SX002	5.5	14.2	6.8	4	B	E-58
59	山茶碗		1D20q	SX002	5.6	13.1	6	5	C	E-59
60	山茶碗		1D20q	SX002	5.5	13	6.1	3	C	E-60
61	山茶碗		1D19r	SX018	5.4	12.1	5	3	A	E-61
62	山茶碗		1D19r	SX018	5.3	13.2	5.5	4	A	E-62
63	山茶碗		1D19r	SX018	5.4	12.6	6.8	7	A	E-63
64	山茶碗		1D19r	SX018	5.2	12.8	6.3	1	A	E-64
65	山茶碗		1D19r	SX018	5	12.2	5.7	4	A	E-65
66	山茶碗		1D20r	SX018	5.1	13	6.5	3	A	E-66
67	山茶碗		1D18r	SX018	5.3	12.2	5.4	1	B	E-67
68	山茶碗		1D18r	SX018	5.4	13.3	5.4	3	B	E-68
69	山茶碗		1D19r	SX018	5.2	13	5.4	2	B	E-69
70	山茶碗		1D19r	SX018	5.6	12.4	4.6	1	B	E-70
71	山茶碗		1D19r	SX018	5.3	12.8	5.5	3	B	E-71
72	山茶碗		1D19r	SX018	5	12.7	6	5	C	E-72
73	山茶碗		1D19r	SX018	5.6	13.8	5	1	C	E-73
74	山茶碗		1D19r	SX018	5.5	13.4	5.4	1	C	E-74
75	山茶碗		1D19r	SX018	5.4	13.5	5.6	3	C	E-75
76	山茶碗		1D19r	SX018	5.6	13.2	5.4	2	C	E-76
77	山茶碗		1D18r	SX018	5.5	12.7	5.4	4	D	E-77
78	山茶碗		1D18r	SX018	6	12.6	5.2	2	D	E-78
79	山茶碗		1D18r	SX018	5.4	13.2	5.5	1	D	E-79
80	山茶碗		1D16r	SX018	5.2	13.1	4.8	2	B	E-80
81	山茶碗		1D16r	SX018	5.5	12.5	5.5	7	B	E-81
82	山茶碗		1D16r	SX018	5.8	13.7	5.8	4	B	E-82
83	山茶碗		1D16r	SX018	5.7	13.3	6.8	1	C	E-83
84	山茶碗		1D16r	SX018	5.5	13.7	5.8	3	D	E-84
85	山茶碗		1D16r	SX018	5.4	12.4	5.8	3	D	E-85
86	山茶碗		1D19r	SX019	5.7	13.6	5	5	A	E-86
87	山茶碗		1D19r	SX019	4.9	13.1	5.4	2	A	E-87
88	山茶碗		1D19r	SX019	5.3	13	5.6	3	A	E-88
89	山茶碗		1D19r	SX019	4.8	12.8	6	6	A	E-89
90	山茶碗		1D19r	SX019	5.3	13.1	5	5	B	E-90
91	山茶碗		1D19r	SX019	4.9	12.3	5.8	2	B	E-91
92	山茶碗		1D19r	SX019	5.5	13.5	5.5	8	C	E-92
93	山茶碗		1D19r	SX019	5.8	12.8	5	1	C	E-93
94	山茶碗		2D1r	平場造成	4.7	12.3	4.8	3	B	E-94
95	山茶碗		1D20q	表土	4.8	13.6	6.2	2	A	E-95
96	山茶碗		1D20q	表土	6.4	14	5.6	3	C	E-96
97	山茶碗		1D18q	西壁 21	5.4	13.8	6	5	C	E-97
98	山茶碗		1D19q	平場造成	6.2	13.2	5.8	2	A	E-98
99	山茶碗		1D19q	表土	5.6	11.6	5.2	1	A	E-99
100	山茶碗		1D19q	表土	5.6	13	5.5	2	B	E-100
101	山茶碗		1D19q	平場造成	5.4	13.6	6.6	3	C	E-101
102	山茶碗		1D19q	平場造成	6.1	14.4	6.2	3	C	E-102
103	山茶碗		1D19r	表土	6.3	13.6	5.8	2	A	E-103
104	山茶碗		1D19r	表土	4.9	13	5	2	B	E-104
105	山茶碗		1D20q	表土	6	13.4	5.2	2	A	E-105
106	山茶碗		1D20r	表土	5.2	13.4	6.4	3	B	E-106
107	山茶碗		平場 04 端部	褐色土	5.3	13.8	5.5	8	A	E-107
108	山茶碗		平場 04 端部		5.4	13.4	5.6	2	B	E-108
109	山茶碗		1D18q	表土	5.6	12.8	5	2	C	E-109
110	山茶碗		1D19r	平場造成	5.4	13.3	6	8	C	E-110

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)			口縁部残存 率 / 1 2	焼成	登録 番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
111	山茶碗		1D19r	表土	5.6	13	5.2	8	C	E-111
112	山茶碗		1D18q	検出	5.1	13.8	6.3	4	A	E-112
113	山茶碗		1D18q	表土	5.6	12.8	5.4	2	B	E-113
114	山茶碗		1D18q	表土	5.7	13	5.7	2	B	E-114
115	山茶碗		1D18q	表土	5.6	13.4	5.8	8	B	E-115
116	山茶碗		1D18q	表土	5.4	14.8	6.5	2	B	E-116
117	山茶碗		1D18q	検出	5.4	13.5	5.4	1	B	E-117
118	山茶碗		1D18q	表土	5.4	13.8	5.5	4	C	E-118
119	山茶碗		1D18q	表土	5.1	13	5.6	3	C	E-119
120	山茶碗		1D18q	表土	5.7	14.4	6.5	4	D	E-120
121	山茶碗		1D18r	平場造成	5.2	12.8	5.2	5	A	E-121
122	山茶碗		1D18r	平場造成	5.4	12.2	5	1	A	E-122
123	山茶碗		1D18r	平場造成	5	13.2	5.5	3	A	E-123
124	山茶碗		1D18r	平場造成	4.7	13.2	5.7	4	A	E-124
125	山茶碗		1D18r	検出	5.4	13.5	6	6	A	E-125
126	山茶碗		1D18r	平場造成	5.3	12.8	4.8	7	B	E-126
127	山茶碗		1D18r	平場造成	5.6	13.6	5	4	B	E-127
128	山茶碗		1D18r	検出	5.9	13.4	6.4	2	B	E-128
129	山茶碗		1D18r	検出	5	12.5	5.2	2	B	E-129
130	山茶碗		1D18r	平場造成	5.8	12.8	5.4	2	C	E-130
131	山茶碗		1D18r	平場造成	6	12.9	5.4	1	C	E-131
132	山茶碗		1D18r	平場造成	5.5	14.2	5.6	2	C	E-132
133	山茶碗		1D18r	検出	5	11.6	5.1	4	C	E-133
134	山茶碗		1D18r	表土	5.4	14.8	6	2	D	E-134
135	山茶碗		1D18r	平場造成	5.4	11.2	5	1	D	E-135
136	山茶碗		1D18r	検出	5.6	12.2	6	1	D	E-136
137	山茶碗		1D19r	検出	5.7	12.2	5.2	2	A	E-137
138	山茶碗		1D19r	検出	5.2	12.8	6	4	A	E-138
139	山茶碗		1D19r	表土	6	13.4	6.2	4	A	E-139
140	山茶碗		1D19r		5.4	12.6	5.6	3	A	E-140
141	山茶碗		1D19r		4.6	13.4	5.8	2	A	E-141
142	山茶碗		1D19r		6	13	5.2	1	A	E-142
143	山茶碗		1D19r		4.9	13.3	6	2	A	E-143
144	山茶碗		1D19r		5	13.2	5.3	1	A	E-144
145	山茶碗		1D19r	検出	4.8	13.3	6.2	4	B	E-145
146	山茶碗		1D19r		5	13	5	3	C	E-146
147	山茶碗		1D19r	検出	5.6	12.6	6.5	1	D	E-147
148	山茶碗		1D19s	平場造成	5.2	12.8	5.5	5	A	E-148
149	山茶碗		1D19s	平場造成	5.3	13.4	5	1	A	E-149
150	山茶碗		1D19s	平場造成	5	13.8	6.2	1	B	E-150
151	山茶碗		1D19s	平場造成	5.1	13.4	6.5	1	C	E-151
152	山茶碗		1D20r	表土	6.8	14.8	6	4	A	E-152
153	山茶碗		1D20s	表土	5.2	17.2	6.4	4	A	E-153
154	山茶碗		1D20s	平場造成	5.3	14.8	6.8	2	A	E-154
155	山茶碗		1D20s	検出	5.7	13.6	5	2	A	E-155
156	山茶碗		1D20s	平場造成	5.2	13	6.2	4	C	E-156
157	山茶碗		1D20s	平場造成	5.4	13	6.1	2	C	E-157
158	山茶碗		平場06	表土	5.1	13	6.2	2	B	E-158
159	山茶碗		1D17r	表土	5.4	13.4	5.2	1	B	E-159
160	山茶碗		1D17q	褐色土	4.9	13.2	6.2	4	A	E-160
161	山茶碗		1D17q	褐色土	4.9	12.4	5.6	4	A	E-161
162	山茶碗		1D17q	褐色土	4.7	13.4	6.3	5	A	E-162
163	山茶碗		1D17q	褐色土	6.1	13.4	5.9	6	B	E-163
164	山茶碗		1D17q	褐色土	5.3	12.8	5	3	B	E-164
165	山茶碗		1D17q	褐色土	6	13.2	5.8	2	B	E-165

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)			口縁部残存 率 / 1 2	焼成	登録 番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
166	山茶碗		1D17q	褐色土	5.7	13	5.6	5	B	E-166
167	山茶碗		1D17q	褐色土	4.8	13.4	5.6	4	B	E-167
168	山茶碗		1D17q	褐色土	5.9	12.8	5.8	2	B	E-168
169	山茶碗		1D17q	表土	5.2	13.6	5.6	3	C	E-169
170	山茶碗		1D17r	検出	5.2	12.8	5.6	3	A	E-170
171	山茶碗		1D17r	検出	5.4	13.4	5.6	2	A	E-171
172	山茶碗		1D17r	検出	5.3	13	5.6	4	B	E-172
173	山茶碗		1D17r	検出	5.6	12.8	5.8	5	B	E-173
174	山茶碗		1D17r	検出	5.1	13.6	7	2	B	E-174
175	山茶碗		1D17r	検出	5.3	12.8	5.6	1	B	E-175
176	山茶碗		1D17r	検出	5.7	13.2	5.6	2	C	E-176
177	山茶碗		1D17r	検出	6	13.2	5.6	2	C	E-177
178	山茶碗		1D18r	検出	5.4	13	5	3	B	E-178
179	山茶碗		1D19t	灰黄色土	4.5	13.2	5.8	2	A	E-179
180	山茶碗		1D19t	灰黄色土	5	13.4	10.4	4	B	E-180
181	山茶碗		1D16r	表土	4.6	13	6	1	A	E-181
182	山茶碗		1D16r	表土	5.6	13.2	5.2	5	A	E-182
183	山茶碗		1D16r	表土	5.8	13.5	5.4	3	A	E-183
184	山茶碗		1D16r	表土	5.8	14	6	2	A	E-184
185	山茶碗		1D16r	表土	4.9	13.8	6	3	B	E-185
186	山茶碗		1D16r	表土	5.7	13	5.6	4	B	E-186
187	山茶碗		1D16r	表土	5.6	13.2	6.2	5	B	E-187
188	山茶碗		1D16r	表土	5.7	13	5.4	4	B	E-188
189	山茶碗		1D16r	表土	5.8	13.6	5	3	B	E-189
190	山茶碗		1D16r	表土	6	12.2	5.4	2	B	E-190
191	山茶碗		1D16r	表土	5.3	13.8	5.4	2	B	E-191
192	山茶碗		1D16r	表土	5.2	11.4	5.4	2	C	E-192
193	山茶碗		1D19r	表土	4.6	13.4	5.8	3	A	E-193
194	山茶碗		1D17q	表土	残 4.4	6.3	0	C	E-194	
195	山茶碗		1D19q ~ 19t	表土	残 1.6	6	0	C	E-195	
196	小皿		1D18r	平場造成	4.2	9.8	4.1	2	B	E-196
197	小皿	I	1D19q	SX001	1.6	8.3	5.3	9	B	E-197
198	小皿	II	1D19q	SX001	2	8	4.9	10	B	E-198
199	小皿	I	1D19q	SX001	1.9	8	6.1	8	C	E-199
200	小皿	I	1D19q	SX001	1.6	8.4	5.7	11	C	E-200
201	小皿	II	1D19q	SX001	1.8	7.9	5	8	C	E-201
202	小皿	III	1D19q	SX002	1.9	7.8	5.4	7	A	E-202
203	小皿	IV	1D19q	SX002	1.6	7.8	4.4	11	A	E-203
204	小皿	II	1D18r	SX018	2.1	7.6	5.4	3	C	E-204
205	小皿	IV	1D19r	SX018	1.8	7.5	4.6	4	A	E-205
206	小皿	IV	1D19r	SX018	1.6	8	4.5	2	A	E-206
207	小皿	II	1D19r	SX018	1.4	7.8	5.3	5	B	E-207
208	小皿	II	1D19r	SX018	1.4	7.7	5.4	2	B	E-208
209	小皿	III	1D19r	SX018	1.6	7.4	4.4	6	B	E-209
210	小皿	II	1D20s	SX018	1.9	7.7	4.5	10	A	E-210
211	小皿	III	1D19r	SX019	1.5	8	4.6	2	A	E-211
212	小皿	III	1D19r	SX019	1.7	8.3	5.8	11	B	E-212
213	小皿	II	1D19q	平場造成	2	7.9	5	6	A	E-213
214	小皿	III	1D19q	表土	2.1	8.1	5.5	11	B	E-214
215	小皿	I	1D19q	平場造成	1.9	8.2	5.9	9	C	E-215
216	小皿	II	1D20q	表土	1.7	7.8	5.4	4	A	E-216
217	小皿	II	1D18q	褐色土	1.8	8.4	4.5	5	B	E-217
218	小皿	II	1D18q	表土	1.7	8	5.8	5	C	E-218
219	小皿	I	1D18r	表土	1.9	8.3	6.1	6	A	E-219
220	小皿	II	1D18r	平場造成	1.9	7.6	5	4	D	E-220

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)			口縁部残存 率 / 1 2	焼成	登録 番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
221	小皿	I	1D19r	検出	1.5	8	5.8	6	C	E-221
222	小皿	II	1D19s	平場造成	1.6	7.6	4.8	4	A	E-222
223	小皿	II	1D19s	平場造成	2	7.8	4.7	2	B	E-223
224	小皿	III	1D19s	平場造成	1.6	7.2	4.5	2	B	E-224
225	小皿	III	1D19s	平場造成	1.7	7.6	4.5	9	B	E-225
226	小皿	II	1D17q	表土	1.7	7.5	5.1	8	C	E-226
227	小皿	II	1D17r	検出	2.1	8.1	5.2	6	A	E-227
228	小皿	II	1D17r	表土	1.9	8	5	5	B	E-228
229	小皿	III	1D17r	検出	1.9	8.2	4.6	2	B	E-229
230	小皿	II	1D17r	検出	2	7.4	4.2	4	C	E-230
231	小皿	II	1D17r	検出	1.6	7.9	5.5	5	C	E-231
232	小皿	I	1D16r	表土	1.8	7.8	5.5	10	A	E-232
233	小皿	II	1D16r	表土	1.6	7.7	4.9	9	B	E-233
234	小皿	II	1D16r	表土	1.7	7.9	4.9	6	B	E-234
					長径	短径	厚さ			
235	陶丸		1D18r	SX018	2.4	2.2	2		B	E-235
236	陶丸		1D20r	SX018	2.5	2.5	残1.9		D	E-236
237	陶丸		1D19r	SX019	2.5	2.3	2.2		B	E-237
238	陶丸		1D19r	SX019	2.5	2.5	残2.2		D	E-238
239	陶丸		1D19q	表土	2.4	2.3	2.4		B	E-239
240	陶丸		1D19r	平場造成	2.6	2.5	2.4		C	E-240
241	陶丸		1D18r	検出	2.4	2.4	2.2		A	E-241
242	陶丸		1D18r	平場造成	2.6	2.5	2.4		B	E-242
243	陶丸		1D19r	検出	2.6	2.3	2.2		B	E-243
244	陶丸		1D17q	表土	2.3	2	1.9		A	E-244
					高さ	口径	底径			
245	四耳壺		1D19r	SX019	28.4	10.2	9.2	2	A	E-245
246	四耳壺		1D19r	SX019	25.1	9.4		6	A	E-246
247	四耳壺		1D19r	SX018	残21.8			0	A	E-247
248	四耳壺		1D18r	平場造成	残6.9	8.8		4	A	E-248
249	四耳壺		1D18s	表土	残3.9	9.6		4	D	E-249
250	四耳壺		1D16q16r	表土	残4.5	9.6		3	B	E-250
251	四耳壺		1D18s	表土	残4.4	9.6		1	D	E-251
252	四耳壺		1D19s	平場造成	残4.8	9.6		5	A	E-252
253	四耳壺		1D18q	表土	残2.9		10.4	0	A	E-253
254	四耳壺		1D18r	褐色土	残3.2			0	C	E-254
255	四耳壺		1D17q	表土	残4.8			0	A	E-255
256	四耳壺		1D18r	平場造成	残4.1			0	D	E-256
257	四耳壺		1D18r	平場造成	残11.4			0	A	E-257
258	四耳壺		1D16r	表土	残15.2			0	A	E-258
259	瓶子		1D17q	褐色土	残6			0	A	E-259
260	瓶子	総腰	1D19r	SX019	残21.4		10	0	A	E-260
261	瓶子	総腰	1D19r	SX019	残24.6		9.6	0	A	E-261
262	瓶子	総腰	1D19s	平場造成	残22.9		9.2	0	C	E-262
263	瓶子	総腰	1D19r	SX019	残25.4		10.3	0	A	E-263
264	瓶子	総腰	1D19r	SX018	残17.8			0	A	E-264
265	瓶子		1D19r	SX018	残9.2			0	B	E-265
266	瓶子	総腰	1D17r	表土	残6.8		9.6	0	B	E-266
267	瓶子	梅瓶	1D19r	SX019	残24.8			0	B	E-267
268	瓶子	梅瓶	1D19r	SX019	残24		7.2	0	A	E-268
269	瓶子	梅瓶	1D19r	平場造成	残22.6			0	C	E-269
270	瓶子	梅瓶	1D16r	表土	残8.6		8.2	0	C	E-270
271	瓶子		1D18r19r	SX018	残0.9		9.9	0	C	E-271
272	卸皿		1D19r	SX019	3.5	13.8	7.6	7	C	E-272

遺物 番号	種類		出土地点		法量 (cm)			口縁部残存 率 / 1 2	焼成	登録 番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
273	鉀皿		1D19r	SX019	3.6	13.7	8	5	C	E-273
274	鉀皿		1D19r	SX018	3.7	14.6	8.1	3	B	E-274
275	鉀皿		1D18r	平場造成	3.8	13.1	6.6	7	C	E-275
276	灰釉皿		1D18r	SX018	3.4	13.5	7.1	5	B	E-276
277	水注		1D17q	表土	残2.7	4.8		2	B	E-277
278	水注		1D19r	表土	残4			0	B	E-278
					縦	横	厚さ			
279	水注		1D17r	検出	残4	2.5	0.8		A	E-279
280	水注		1D18q	表土	残2.2	2.5	0.8		A	E-280
281	水注		1D18r	平場造成	残5.5	2.4	0.7		A	E-281
					長径	短径	厚さ			
282	団子トチ		1D19s	表土	2.5	2.2	0.9			E-282
					長さ	幅	厚さ			
283	馬爪鏡台	赤	1D19s	平場造成	12.4	残9.3	5.1		硬	E-283
284	馬爪鏡台	赤	1D18r	平場造成	14.3	残10.5	7.2		硬	E-284
285	馬爪鏡台	赤	1D18q	表土	5.3	4.7	3		硬	E-285
286	馬爪鏡台	青	1D19q	SX001	13.8	13.5	7.8		軟	E-286
287	馬爪鏡台	青	1D19q	SX001	13.8	12.9	7.7		硬	E-287
288	馬爪鏡台	青	1D19q	SX001	14.3	13.6	7		硬	E-288
289	馬爪鏡台	青	1D20q	SX002	13.3	12	7.6		硬	E-289
290	馬爪鏡台	青	1D20q	SX002	12.3	13.3	7.4		硬	E-290
291	馬爪鏡台	青	1D20q	SX002	13	13.3	7.2		硬	E-291
292	馬爪鏡台	青	1D20q	SX002	12.9	12.1	5.9		硬	E-292
293	馬爪鏡台	青	1D19q	SX001	16.3	14.6	12.1		非硬	E-293
294	分楯棒	赤	1D19r	SX019	残15.8	残10.4	残5.4		非硬	E-294
					器高	口径	底径			
295	小皿	l	1D18r	検出	残1.5	7.7	5		A	E-295
296	山茶碗		1D19q	SX001	残11.3	13.4	6.2		A	E-296
297	山茶碗		1D19q	SX001	残7	12.8	5.2		A	E-297
298	山茶碗		1D19q	SX002	残4.7	13.3	6.1		B	E-298
		付着			長さ	幅	厚さ			
299	四耳壺	陶丸	1D18r	SX018	残10.4	残4.9	残2.9		A	E-299
300	壺瓶類	陶丸	1D17r	表土	残5.1	残5.6	残2.8		A	E-300
301	壺瓶類	陶丸	1D18r	平場造成	残10.3	残8	残3.5		A	E-301
302	四耳壺	陶丸	1D18r	平場造成	残10.1	残9.4	残3.1		A	E-302
303	壺瓶類	陶丸	1D18r	平場造成	残5.8	残7.8	残3.3		A	E-303
304	山茶碗	陶丸	1D19r	平場造成	残3.3	残5.5	残3.2		A	E-304
305	山茶碗	山茶碗	1D18r	平場造成					A	E-305
306	山茶碗	山茶碗	1D19q	西壁53					A	E-306
307	山茶碗	山茶碗	1D18r	平場造成					A	E-307
308	山茶碗	山茶碗	1D19r	検出					A	E-308
309	山茶碗	山茶碗	1D18q	検出					A	E-309
310	山茶碗	山茶碗	1D16r	表土					A	E-310
311	窯壁		1D19r	表土						E-311
312	窯壁		1D19q	SX001						E-312
313	山茶碗		1D19q	SX002					C	E-313

第4章 理化学的分析

第1節 西松山峠窯跡出土炭化材の樹種同定

野村敬江 (バレオ・ラボ)

(1) はじめに

ここでは、愛知県瀬戸市北松山町に位置する西松山峠窯跡から出土した炭化材5試料の樹種同定結果について報告する。本窯跡の時期は13世紀頃にあたとされる。今回同定した炭化材のうち、No.2～5は灰原のSX001出土であり、窯作業時の燃料材だと考えられる。No.1はSK010から出土し、窯の作業と同時代のものかは分からないとされている。なお、樹種同定を行った5試料は、放射性炭素年代測定も行った。

(2) 炭化材樹種同定の方法

同定にあたって材の3断面(横断面・接線断面・放射断面)作成が可能な大きさの炭化材を選び出した。次に、実体顕微鏡下で材の3断面を作成し、材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角程度の大きさに整形した後、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し試料台を作成した。この後試料台を乾燥させ、金蒸着を施し走査電子顕微鏡(日本電子製 JSM-T100型)で撮影を行った。同定した試料のうち、各分類群を代表する試料については写真図版(図31)を添付し、同定結果を記載した。

(3) 結果

各試料の樹種同定結果の一覧を表24に示した。同定の結果、針葉樹であるアカマツが4試料認められた。なお、No.3は保存状態が悪く、放射仮道管の肥厚状態を確認できなかったためにマツ属までの同定に留めた。

次に同定された樹種の材組織について記載を行なう。

a アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. Zucc. マツ科 図31 (1a-1c) No.1

仮道管および垂直、水平樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞、放射柔細胞および放射仮道管によって構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急であり晩材部の幅も広い。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は重鋸歯状を呈す。放射柔細胞の分野壁孔は壱状となる。アカマツは高さ30mに達する常緑高木である。北海道南部・本州・四国・九州に分布する。乱伐された地域にもよく生育する。

(4) 考察

放射性炭素年代測定結果を参照すると、SK010出土の炭化材は、1660calADから1960calADの暦年代範囲を示し、窯作業時より後世のものであると考えられる。したがって、本窯跡の作業に伴い利用された材は、灰原のSX001から出土したNo.2～5であり、樹種はアカマツ3点とマツ属1点である。山口・千野(1990)による瀬戸・美濃窯跡群の炭化材樹種構成の集計をみると、13世紀前半から13世紀後半にあたる広久手、南山、穴田南の窯跡では、二葉松類やマツ類、クヌギ類が同定されている。山口・千野(1990)はこれらの窯跡から共通して二葉松類やマツ類が産出することから、周辺植生の二次林化が進んでいたことを指摘している。今回の同定結果はこうした当地域における窯業の樹種利用とはほぼ一致しており、窯跡周辺の二次林化が推察された。

参考文献

山口慶一・千野裕道（1990）マツ林の形成および窯業へのマツ材の導入について。「東京都埋蔵文化財センター 研究論集Ⅷ」：85-114，東京都埋蔵文化財センター。

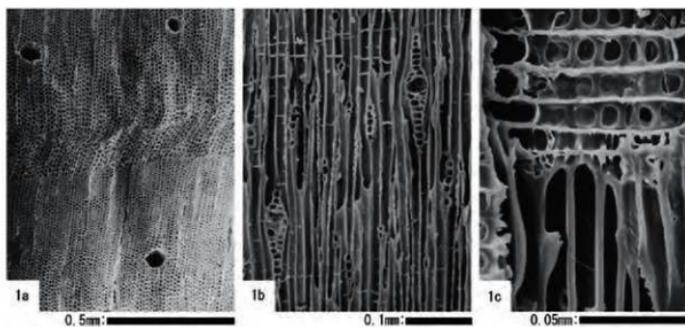


図3-1 西松山峠窯跡出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真

1a-1c: アカマツ (No.1) a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面

表2-4 西松山峠窯跡の樹種同定結果

No.	グリッド・遺構名	層位	樹種	PLD 番号
1	2D1q・SK010	東半（平場 04）	アカマツ	PLD-7680
2	1D19q・SX001	下層（黒色土）	アカマツ	PLD-7681
3		3層	マツ属	PLD-7682
4		2層	アカマツ	PLD-7683
5		下層（黒色土）	アカマツ	PLD-7684

(1) はじめに

愛知県瀬戸市・西松山峠原跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。試料の調製は廣田、瀬谷、Lomtadize、Jorjoliani が、測定は小林、丹生、伊藤が行い、本文は伊藤、中村が作成した。

(2) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 25 のとおりである。試料は、SK010 から出土した炭化材 1 点、SX001 から出土した炭化材 4 点、計 5 点の炭化材である。なお、試料とした炭化材は樹種同定もっており、表 25 で樹種の記述は野村敏江の報告を参照した。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表 25 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-7680	位置：2D1q 遺構：SK010 層位：東半（平場 04） その他：060704	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7681	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：下層（黒色土） その他：060801	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7682	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：3 層 その他：060802	試料の種類：炭化材（マツ属） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7683	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：2 層 その他：060802	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7684	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：下層（黒色土） その他：060801	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)

(3) 結果

表 26 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行い、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した 14C 年代、14C 年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年代較正に用いた年代値を、図 32 に暦年代較正結果をそれぞれ示す。暦年代較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年代較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年代較正を行うために記載した。14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代 (yrBP) の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14C 年代がその 14C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示すものである。なお、暦年代較正の詳細は以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。14C 年代の暦年代較正には OxCal3.10 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表 26 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	暦年代較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-7680	-29.6 \pm 10.19	164 \pm 18	165 \pm 20	1670AD(7.0%)1690AD	1660AD(17.0%)1700AD
				<u>1730AD(44.1%)1780AD</u>	<u>1720AD(59.3%)1820AD</u>
				1790AD(6.0%)1810AD	1910AD(19.1%)1960AD
				1920AD(11.2%)1950AD	
PLD-7681	-26.53 \pm 0.21	688 \pm 19	690 \pm 20	<u>1275AD(68.2%)1300AD</u>	<u>1270AD(77.5%)1310AD</u>
					1360AD(17.9%)1390AD
PLD-7682	-26.81 \pm 0.22	656 \pm 20	655 \pm 20	1285AD(30.0%)1305AD	1280AD(44.6%)1320AD
				<u>1360AD(38.2%)1385AD</u>	<u>1350AD(50.8%)1390AD</u>
PLD-7683	-25.80 \pm 0.18	743 \pm 20	745 \pm 20	<u>1260AD(68.2%)1280AD</u>	<u>1225AD(95.4%)1290AD</u>
					1260AD(92.2%)1300AD
PLD-7684	-26.60 \pm 0.19	705 \pm 19	705 \pm 20	<u>1275AD(68.2%)1290AD</u>	<u>1370AD(3.2%)1380AD</u>

(4) 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年代較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

参考文献

- Ramsey,C.B.(1995)Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy:The OxCal Program. Radiocarbon,37,425-430.
- Ramsey,C.B.(2001)Development of the Radiocarbon Program OxCal.Radiocarbon,43,355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代, 3-20.
- Reimer,P.J.,Baillie,M.G.L.,Bard,E.,Bayliss,A.,Beck,J.W.,Bertrand,C.J.H.,Blackwell,P.G.,Buck,C.E., Burr,G.S.,Cutler,K.B.,Damon,P.E.,Edwards,R.L.,Fairbanks,R.G.,Friedrich,M.,Guilderson,T.P., Hoog, A.G.,Hughen,K.A.,Kromer,B.,McCormac,G.,Manning,S.,Ramsey,C.B.,Reimer,R.W.,Remmele,S., Southon,J.R.,Stuiver,M.,Talamo,S.,Taylor,F.W., J.van der Plicht and Weyhenmeyer,C.E. (2004) IntCal104 terrestrial radiocarbon age calibration,0-26 cal kyr BP.Radiocarbon, 46, 1029-1058.

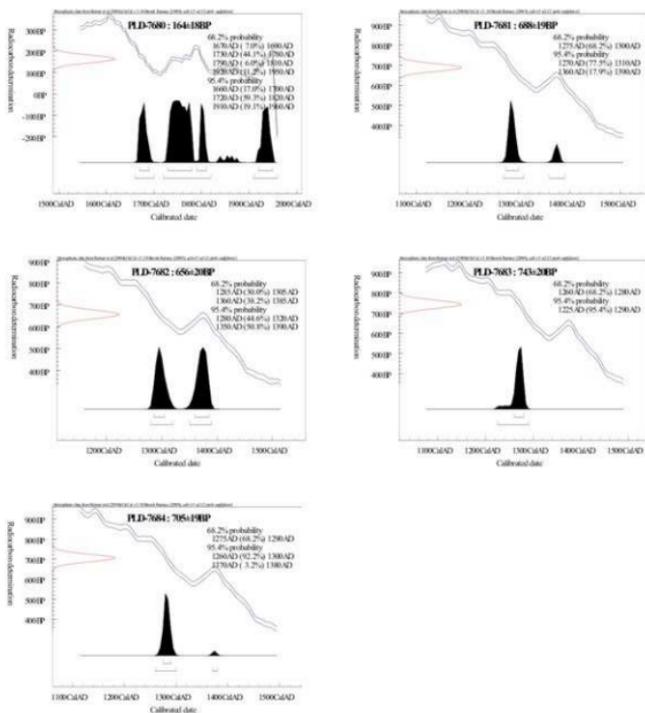


図 3.2 暦年較正結果

第5章 総括

第1節 調査成果のまとめ

(1) 旧地形の復元

調査開始以前は、平場造成による地形の改変はあるものの、南西から北東方向に下る斜面は操業当時の地形を残していると考えていた。しかし調査の結果、調査区南部は窯業生産終了から平場造成までの間に大量の土砂の流出入があり、操業当時の地形を残していないことが判明した。一方、調査区北部は平場造成時に削平された部分を除き操業当時の地形を残していた。特に西端で検出した灰原(SX001)の下面は確実に操業当時の地山といえる。

(2) 窯体の位置

調査区内で窯体は検出されなかった。しかし、調査区北西端で灰原(SX001)を検出したことから、窯体はSX001の西方に所在すると思われる。ただし、窯体想定地点も平場造成による地形の改変を受けているため、肉眼による地表観察では窯体残存の有無を確認することはできなかった。

(3) 生産規模

出土遺物は、山茶碗・小皿・陶丸などの無釉陶器と四耳壺・瓶子・水注・卸皿などの施釉陶器(古瀬戸)に分けられる。出土の割合は山茶碗が全出土数の93%と大多数を占める。ただし山茶碗出土数1047点は、灰原の流失や平場造成に伴う土砂の移動を考慮しても少ない。古瀬戸の出土量はさらに少なく焼成は1回のみの可能性が高い。窯体が確認されていないので、山茶碗と古瀬戸を別々の窯体で焼成した可能性も考慮する必要があるが、この時期に古瀬戸専焼窯が存在した確証はなく、出土した山茶碗と古瀬戸は同じ窯体で焼成されたと思われる。還元炎焼成の尾張型山茶碗と酸化炎焼成の古瀬戸との同時焼成は考えられないので、山茶碗と古瀬戸を焼成した順番と回数が問題になる。出土した古瀬戸の中には、陶丸が付着した四耳壺や底部外面に青灰色焼台が着着した瓶子がみられ、山茶碗焼成時に古瀬戸を窯道具として二次利用している。このことから古瀬戸焼成後に山茶碗が焼成されていることは確実である。また、器の内面と外面の両方に自然軸がかかる山茶碗が出土しており、山茶碗は2回以上焼成されたことがわかる。また調査された近隣の窯跡では、すべて山茶碗生産の合間に古瀬戸を焼成していることから、山茶碗→古瀬戸→山茶碗の順番で焼成された可能性が高い。

(4) 編年的位置付け

出土遺物がすべて同一窯体で焼成されたものとして、山茶碗と古瀬戸の編年的位置付けを試みる。

a 無釉陶器(山茶碗・小皿)

山茶碗は、高台の有無と口縁部の断面が三角形か四角形かの違いから4つに分類が可能である。高台は完存するものはわずか、付着状況を見ると高台内面の指ナデは全周するものの、外面はわずかな指押さえがみられる程度である。これは高台が本来の機能を失い輪下子化する直前の様相を示している。また無高台のもの多くに高台の剥離痕がみられ、焼成段階には高台はあったことがわかる。つまり高台の有無で時期差を判断することはできない。さらに焼成不良のため胎土が黄白色したやや軟質な山茶碗の存在に注目すると、これらは特にSX001、002での出土の割合が高く同時焼成されたと思われる。これらの口縁部の断面は三角形のものも四角形のものもあり、口縁部の仕上げの違いも時期差をあらわしていない。以上のことから山茶碗は時期差のない短期間に2回以上の焼成が行

われたことがわかる。これらの山茶碗は高台が輪下化する直前という特徴から、藤澤編年尾張型山茶碗第7型式の最終段階、13世紀後半に位置付けることができよう。これはSX001出土の炭化材による放射性炭素年代測定結果ともほぼ一致している。

小皿も口縁部や体部外面の形状の違いから4つに分類できるが、山茶碗同様型式が変わるほどの時期差はない。ただし1としたグループは、口縁部が厚手で器高が低く底径が広いという特徴を持ち、他のグループより新しい可能性がある。

b 施釉陶器（古瀬戸）

古瀬戸としては四耳壺、瓶子、水注、鉦皿がある。すべて灰釉が刷毛塗りされており鉄釉のものはない。四耳壺、瓶子、水注の共通する特徴としては、肩部から胴部上方にかけて櫛描きによる平行沈線が1ないし2ヶ所施されていることである。ただし四耳壺の中には沈線がみられないものも存在する。さらに四耳壺は口縁部の形状の違いから2つに、瓶子は締腹形と梅瓶形の2つに分けることができる。水注は把手が付き、口縁部が受口状にならないものが出土している。四耳壺と瓶子はともに肩の張りが少し緩みつつあるが、沈線は胴部最大径より上に施されている。鉦皿は底径が狭く底部外面に糸切り痕を残す。団子トチによる重ね挽きが行われており、口縁部の形状で2つに分けることができる。以上の特徴から、古瀬戸は藤澤編年古瀬戸前期から前IV期にかけて、山茶碗と同様の13世紀後半に位置付けることができよう。

第2節 中世瀬戸窯における西松山峠窯跡の位置付け

本窯跡は瀬戸窯水野区に所在する。水野区には灰釉陶器窯はなく、初期山茶碗窯の段階に名古屋市守山区や尾張旭市から工人が移動してきて生産を開始したと考えられている。第5型式段階になると輪山区を中心に東濃型山茶碗と前1期の古瀬戸の併焼が開始される。この段階の水野区は東濃型山茶碗専焼窯が主流であるが、水野区西部の小田妻窯跡から第5型式の東濃型山茶碗とともに前1期の古瀬戸が出土しており、初期の段階から古瀬戸を生産している。

第6型式段階になると、瀬戸窯では東濃型山茶碗に代わり尾張型山茶碗が生産されるようになる。尾張型山茶碗の生産は猿投窯から移動してきた工人によるもので、従来からいる工人は古瀬戸のみを生産するようになったと考えられている。ただし、古瀬戸の生産は尾張型山茶碗と同じ窯体で山茶碗生産の合間に行われていた。以前は水野区で東濃型山茶碗を生産していた工人は品野区へ移動して生産を続けたと考えられていたが、現在品野区の東濃型山茶碗窯は東濃窯の影響で生産が開始されたと考えられており、水野区の工人の移動先は不明とされている。その一方で、水野区での東濃型から尾張型への変化を工人の移動と考えず、同一工人集団内での技術転換とする考えもある。

第7型式段階になると、瀬戸窯では尾張型山茶碗窯の数が爆発的に増加するが、第9型式段階になると赤津区を除きその数は急減する。これに対して水野区の窯跡数は第6型式から第9型式にかけて各型式10基程度と多くはないが安定した生産が続けられている。古瀬戸は前II期になると生産の中心が輪山区から分散し、その後は前III期から前IV期にかけては瀬戸区に、中期以降は赤津区に集中する。水野区は分散期の前II期に4基を数えるものの、その後はわずかな生産が行われているにすぎない。

以上のことから、水野区は瀬戸窯の中でも比較的早い段階から生産が始まったにもかかわらず、その後は爆発的に窯数を増減させることなく、山茶碗を中心とした小規模な生産を続けていた地域であることがわかる。

本窯跡は水野区の南部に位置し、周辺には第6型式から第9型式にかけての山茶碗を焼成した窯跡がいくつか見られる。その中には前II期の古瀬戸を併焼した窯跡が4基（西松11号窯跡、苗場窯跡、

水南中窯跡、水南小前窯跡）あり、前Ⅱ期の窯跡が集中する地域である。ただし生産の中心はあくまで山茶碗であり、古瀬戸生産は山茶碗生産の合間に行われたにすぎない。この時期の古瀬戸焼成窯の増加は幡山区からの工人の移動によるものと考えられているが、前述したように水野区には前Ⅰ期の窯跡が確実に存在することから、単純に他地区からの移動だけでは説明できない。続く前Ⅲ期から前Ⅳ期にかけての古瀬戸併焼窯は従来実態不明の1基（南地蔵窯跡）が知られているのみであり、工人は窯跡が集中する瀬戸区へ移動したと考えられてきた。しかし今回第7型式の山茶碗専焼窯と考えられていた本窯が、前Ⅲ期から前Ⅳ期にかけての古瀬戸併焼窯であることが明らかになったことで、水野区南部では前Ⅱ期からこの時期まで連続して古瀬戸を生産していることが明確となった。今後はこの時期の生産の中心である瀬戸区との関係がどのようであったかが課題となろう。

表27 山茶碗・小皿グリッド別出土個体数表

グリッド	平場	山茶碗			小皿		
		破片数	重量g	底部 1/2数	破片数	重量g	底部 1/2数
1D16q	7	32	314	0	1	4	0
1D16r	7.10	1098	19496	110	10	218	3
1D16s	10.12	8	148	2	0	0	0
1D16t	12	1	50	1	0	0	0
1D17q	7	703	9847	49	5	84	1
1D17r	7	1831	23020	103	11	294	5
1D17s	10	32	428	1	1	2	0
1D17t	10.12	1	30	0	0	0	0
1D18q	4.6	1048	14829	72	3	94	2
1D18r	6	2852	38032	193	19	244	5
1D18s	6.9	89	1409	11	0	0	0
1D18t	6.12	87	2952	29	0	0	0
1D19q	4	3598	34733	127	24	711	10
1D19r	4.6	2539	36068	168	31	382	8
1D19s	6.9	596	10312	65	4	154	4
1D19t	9.12	59	1750	14	0	0	0
1D20q	4	504	5799	26	2	20	1
1D20r	5.6	420	5730	20	0	0	0
1D20s	5.6,8.9	161	3524	26	2	66	1
1D20t	9.12	8	50	0	0	0	0
2D1q	3	3	126	1	0	0	0
2D1r	3.5	11	172	1	0	0	0
2D1s	5.8	29	352	4	2	12	0
2D1t	5.11,12	2	10	0	0	0	0
2D2q	3	1	2	0	0	0	0
2D2r	5	1	10	0	0	0	0
2D2s	5.8	1	4	0	0	0	0
2D2t	8.11	2	40	1	0	0	0
2D3q	3.5	3	30	0	0	0	0
2D3r	5	2	46	1	0	0	0
2D3s	5.8	18	142	1	0	0	0
調査区外		391	5050	21	2	12	0
合計		16131	214505	1047	117	2297	40

表 28 古瀬戸グリッド別出土個体数表

グリッド	壺瓶類		皿類	
	破片数	重量 g	破片数	重量 g
1D16r	5	370	0	0
1D17q	20	1006	0	0
1D17r	41	1884	2	68
1D17s	6	147	0	0
1D18q	12	395	0	0
1D18r	66	2393	13	234
1D18s	19	622	6	52
1D18t	24	1199	0	0
1D19q	0	0	1	8
1D19r	97	5282	23	423
1D19s	53	2433	6	107
1D19t	32	1528	0	0
1D20q	3	216	0	0
1D20r	7	294	0	0
1D20s	24	1092	3	76
1D20t	12	637	0	0
2D1s	5	297	0	0
不明	3	94	8	50
合計	429	19889	62	1018

溶着資料の重量は含まず

表 29 陶丸グリッド別出土個体数表

グリッド	破片数	重量 g	1/2 残存数
1D17q	1	10	1
1D17r	1		1
1D18r	15	42	15
1D19q	1	14	1
1D19r	9	74	8
1D20r	1	10	1
合計	28	150	27

溶着資料の重量は含まず

表 30 焼台グリッド別出土個体数表

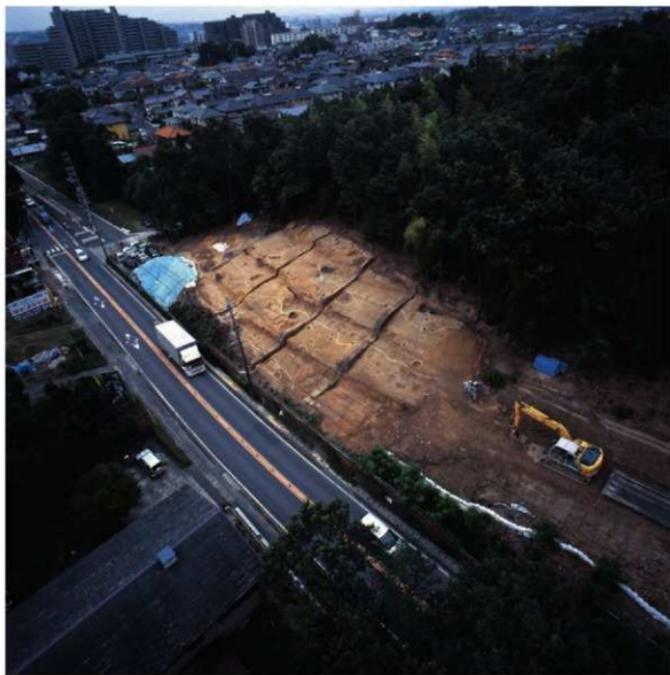
グリッド	平場	青灰色		赤褐色	
		1/2 以上残存数	破片数	重量 g	1/2 以上残存数
1D16r	7,10	3	0	0	0
1D17r	7	5	4	875	1
1D18q	4	4	1	50	1
1D18r	6,7	15	53	10170	4
1D18s	6,9	0	6	1170	0
1D18t	9	0	4	790	0
1D19q	4	166	0	0	0
1D19r	4,6	24	19	3375	1
1D19s	6	10	5	1530	1
1D19t	9	1	1	105	0
1D20q	4	7	0	0	0
1D20r	4,5,6	5	0	0	0
1D20s	6	20	0	0	0
1D18t19t	9		1	340	0
合計		260	94	18405	8

SX001,002 はすべて 1D19q に含む

破片数、重量に分焙種を含む

参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2007 『愛知県史別編窯業2中世・近世瀬戸系』 愛知県
- 太田正弘 1981 『瀬戸市』 『日本歴史地名大系第23巻愛知県の地名』 平凡社
- 岡本直久ほか 2002 『内田町遺跡』 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 小澤一弘 2003 『焼台からみた鶯窯跡』 『研究紀要第4号』 (財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
- 尾野善裕 2005 『中世瀬戸・常滑の窯と窯道具』 『窯構造・窯道具からみた窯業—関西窯場の技術的系譜をさぐる—研究集会資料集』 関西陶磁史研究会
- 金子健一ほか 1996 『東拝戸A窯跡』 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 河合君近 2006 『瀬戸窯の成立』 『鎌倉時代の考古学』 高志書院
- 佐野元 1992 『水南小前窯の出土遺物—南部系山茶碗第6・7型式と古瀬戸前期の—様相—』 『平成2年度瀬戸市埋蔵文化財年報』 瀬戸市教育委員会
- 城ヶ谷和広ほか 1992 『小田妻古窯跡群』 (財)愛知県埋蔵文化財センター
- 瀬戸市教育委員会 1997 『瀬戸市詳細遺跡地図』
- 瀬戸市教育委員会 1997 『瀬戸市内遺跡詳細分布調査報告書』
- 瀬戸市史編纂委員会 2007 『瀬戸市史通史編上』 瀬戸市
- 永井邦仁 2007 『西松山峠窯跡』 『年報平成18年度』 (財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
- 永井宏幸ほか 2005 『嵐山C窯跡・惣作・鐘場遺跡I』 (財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐ほか 1985 『瀬戸晩地区内陸用地造成事業に伴う埋蔵文化財(緊急)発掘調査報告書』
瀬戸市教育委員会
- 藤澤良祐 1994 『山茶碗研究の現状と課題』 『三重県埋蔵文化財センター研究紀要第3号』
三重県埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 1995 『土に生きる「職人」—東海の子茶碗生産者について—』 『中世の風景を読む3
境界と部に生きる人々』 新人物往来社
- 藤澤良祐 2005 『日本の遺跡5瀬戸窯跡群』 同成社
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 松澤和人ほか 1995 『水南中窯跡』 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 水野収ほか 1986 『瀬戸市史資料編二自然』 瀬戸市
- 水野時二ほか 1991 『角川日本地名大辞典23愛知県』 角川書店



調査区遠景（北東より）

調査区周辺は開発が進み現況から旧地形をうかがい知ることは難しい。調査区東側の道路は国道 155 号。



調査区遠景（南より）



調査区遠景（東より）



調査区近景（東より）

東向き丘陵斜面を段々畑に開墾した様子がよくわかる。遺物の出土は調査区の北部に集中した。



調査区北部（南東より）

出土遺物は灰色土から多く出土したが、ほとんどは開墾にともなう二次堆積であった。



平場 03 南部 (東より) 左: SD101 右: SD102



平場 03 北部 (南より) SX003



平場 04 (南西より)



平場 05 (南より)



平場 03・05 (西より) 手前: 平場 03 奥: 平場 05



平場 06 (北より) 中央白線より左側が SX018



平場 09 (南より)



平場 07・10 (西より) 手前: 平場 07 奥: 平場 10



トレンチ 01 断面 (西より)



トレンチ 01 深堀断面 (北より)

底から山茶碗が出土し、中世以降の堆積と判明した。



トレンチ 02 断面 (北西より)

手前左: SX001 手前右: SX002



ベルト 01 断面 (北西より) 手前中央: 畑にともなう埋張



調査区西壁 (東より) 中央: SK111 左の灰層: SX001



ベルト 02 断面 (南東より)

褐色土は地山崩。平場造成時に削平された様子がよくわかる。



ベルト 03 断面 (南東より)



ベルト 04 断面 (南東より)



SX001 遺物出土状態 (南西より) 灰原。多数の焼台に混じり山茶碗・小皿が出土した。



SX001 南北断面 (北東より)



SX001 東西断面 (北東より) 間に灰層がみられる。



SX001 完掘状況 (北東より)



SX002 遺物出土状態（北西より） 山茶碗の高台が剝離した状態で大量に出土した。



SX019 遺物出土状態（北西より）



SX019 遺物出土状態（北より）

山茶碗・小皿に混じり古瀬戸製品が出土した。



SX019 断面（北東より）

浅い凹地に遺物が堆積している様子がわかる。



SX019 完掘状況（北西より）













团子卜子使用痕





報告書抄録

ふりがな	にしまつやまとうげかまあと							
書名	西松山峠窯跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第160集							
編著者名	宇佐見守・野村敏江・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫・Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani・藤根久・中村賢太郎							
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
にしまつやまとうげかまあと 西松山峠窯跡	あいちけんせと 愛知県瀬戸市 きたまつやま 北松山町	市町村	遺跡番号	35° 14' 13"	137° 4' 47"	20060620 ～ 20060803	750	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
西松山峠窯跡	古窯跡	鎌倉	灰原・土坑	山茶碗・古瀬戸	古瀬戸の出土			
文書番号	発掘届出 (18埋セ第7号・18.5.16) 通知 (18教生第426号・18.5.30) 終了届・保管証・発見届 (18埋セ第39号・18.8.22) 鑑査結果通知 (18教生第1306号・18.9.25)							
要約	調査区は中世以降の土砂流入や近現代の平地造成により地形が大きく改変されており、良好な遺構としては、北西部で灰原の一部である桃台集積遺構を検出したのみである。出土遺物としては、第7型式の尾張型山茶碗と前Ⅲ～Ⅳ期の古瀬戸が出土し、従来山茶碗専焼窯と考えられていたが本窯が、鎌倉時代(13世紀後半)の古瀬戸焼成窯(山茶碗併焼窯)であることがわかった。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第160集

西松山峠竈跡

2009年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 新日本法規出版株式会社